

(様式第10)

神大医支 第 49号
令和 6年 10月 4日
開設者名

厚生労働大臣 殿

国立大学法人神戸大学長
藤澤 正人

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
氏名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

神戸大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2
電話(078) 382-5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
「神経内科」の診療内容は脳神経内科、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病内分泌内科、「代謝内科」及び「リウマチ科」の診療内容は「内科」、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は「内科」、「呼吸器内科」、「皮膚科」等で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						無	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
「消化器外科」の診療内容は食道・胃腸外科、「乳腺外科」及び「内分泌外科」の診療内容は乳腺・内分泌外科で提供している							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍・血液内科	2	肝臓・胆のう・膵臓外科	3	耳鼻いんこう頭頸部外科	4	美容外科	5	形成外科
6	放射線腫瘍科	7	病理診断科	8	脳神経内科	9	リハビリテーション科	10	糖尿病内分泌内科
11	食道・胃腸外科	12	乳腺・内分泌外科	13	歯科口腔外科	14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46	0	0	0	888	934

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	587	313	734.2	看護補助者	32	診療エックス線技師	0
歯科医師	13	15	22.1	理学療法士	20	臨床検査技師	79
薬剤師	72	2	73.1	作業療法士	7	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	13	その他	0
助産師	40	1	40.5	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	957	10	963.3	臨床工学士	42	医療社会事業従事者	13
准看護師				栄養士	0	その他の技術員	53
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	2	事務職員	52
管理栄養士	19	0	19	診療放射線技師	60	その他の職員	20

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	90	眼科専門医	13
外科専門医	72	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	11	放射線科専門医	27
小児科専門医	25	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	9	整形外科専門医	32
泌尿器科専門医	26	麻酔科専門医	23
産婦人科専門医	13	救急科専門医	11
		合計	379

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 眞庭 謙昌) 任年月日 令和 3 年 2 月 1 日

医療安全管理委員会委員(令和2年9月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	721 人	11.9 人	733 人
1日当たり平均外来患者数	1750.5 人	94.3 人	1844.8 人
1日当たり平均調剤数	1384.1		剤
必要医師数	178		人
必要歯科医師数	7		人
必要薬剤師数	25		人
必要(准)看護師数	428		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	663.6 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 36 床 人工呼吸装置 有 その他の救急蘇生装置 有	心電計 有 心細動除去装置 有 ペースメーカー 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 35.3 m ² [移動式の場合] 床面積 722.35 m ² 台数 4 台		病床数 (クラス100) 5 床 病床数 (クラス100以外) 63 床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 36 m ² [共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	438 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動臨床化学分析装置
細菌検査室	88 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置
病理検査室	278 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	クリオスタット、ウルトラミクロトーム、染色装置
病理解剖室	67 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、オートクレープ、写真撮影機
研究室	429 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
講義室	1217 m ²	鉄筋コンクリート	室数 6 室	収容定員 1082 人
図書室	2145 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 約15万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.6 %	逆紹介率	72.6 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	19409 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17118 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1242 人	
	D: 初診の患者の数	23548 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 内科 科特任部長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
丸山 英二	京都府立医科大学大学 院医学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
武田 高	関西住宅品質保証株式会社 監査役(非常勤)		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	前立腺組織用高圧水噴射システムを用いた経尿道的前立腺切除術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 対象は前立腺肥大症(BPH)に伴う下部尿路機能障害を呈する患者。また、「不十分な症状の改善のほか、尿閉・血尿・膀胱結石・腎機能障害・尿路感染症(注1)などの合併症がある」患者のうち、前立腺体積50mL以上の患者で、手術時間が長くなることが予測され、患者へのリスクが増加する場合。経尿道的前立腺切除術(TURP)と比較して非劣性が示されており、特に前立腺が50mL以上の場合には有効性の優越性が認められている。前立腺組織を切除することにより、尿の出方や勢いの改善が期待される。膀胱又は前立腺被膜の穿孔、膀胱頸部の拘縮等のリスクがある。			
医療技術名	単孔式ロボット支援下胸腔鏡手術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 対象は、従来の多孔式ロボット支援手術と同じ対象と考えているが、導入当初は肺門・縦隔リンパ節腫大のない早期癌での施行を想定している。ダビンチアームを3本4cmの創1か所から挿入して手術を行う。ロボット支援下手術ではアームの干渉を軽減するため、ポート間を6~10cm確保するように推奨しているが、単孔式ロボット支援下手術ではポート間の距離確保は困難であるため、Diegoらが報告している方法9)を参考に手術を実施する。4cm以下の傷1つで高精度でより低侵襲な手術ができる手技であるため、痛みが少なく、胸部手術後に10~50%生じてしまう肋間神経障害が慢性的に残ってしまう可能性を減少させることができる。出血や感染、肺癰・気管支瘻等のリスクがある。			
医療技術名	ロボット支援下総胆管拡張症手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 対象は、先天性総胆管拡張症における手術適応患者のうち、次の4点を満たす患者。①総胆管拡張症手術②体重10 kg以上③胆管炎・急性膵炎の既往がない④ASA 2 以下で全身状態良好な患者 ロボット支援手術認定プロクター(消化器・一般外科)の指導下に手術を行う。低侵襲手術であること、腹腔鏡下手術に比べて、手ブレのないこと、より精緻な操作が可能なこと、より繊細かつ安全な総胆管囊腫剥離および肝管空腸吻合術が行うことが可能となること、術後合併症、術後入院期間は開腹手術に比べて低減・短縮すること等がメリットである。術中出血、呼吸、循環不全、他臓器損傷等のリスクがある。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎・尿管悪性腫瘍手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 対象は、画像検査(CT,MRIおよびUS等)にて腎癌あるいは、腎盂尿管癌と診断され手術適応と考えられた患者。3Dの拡大視野の下、ロボットアームの高い自由度があり、人の手指と同様で器用に動き、かつ手振れもないため、確実・安全に手術を遂行できる。特に腹腔鏡の直線状の鉗子と比較して、動きの柔軟性、確実性に利点がある。特にリンパ節郭清を行う場合や、腎静脈内に腫瘍が進展しているような場合でも、開腹手術と同様に安全かつ低侵襲に手術を完遂できる。出血、感染、周辺臓器損傷(特に腸管、肝臓、膵臓、脾臓、横隔膜、大血管)のリスクがある。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	4
取扱い患者数の合計(人)	11

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	129
2	筋萎縮性側索硬化症	13	57	特発性拡張型心筋症	104
3	脊髄性筋萎縮症	49	58	肥大型心筋症	129
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	6	60	再生不良性貧血	19
6	パーキンソン病	270	61	自己免疫性溶血性貧血	17
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	56
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリエー・トウス病	21	65	原発性免疫不全症候群	20
11	重症筋無力症	189	66	IgA 腎症	0
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性嚢胞腎	38
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	192	68	黄色靭帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/ 多巣性運動ニューロパチー	40	69	後縦靭帯骨化症	3
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クロウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	108
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	66	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	5	75	クッシング病	21
21	ミトコンドリア病	29	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	41	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	27	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	143
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	17
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	34
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	104
34	神経線維腫症	112	89	リンパ脈管腫症	9
35	天疱瘡	9	90	網膜色素変性症	3
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	13	92	特発性門脈圧亢進症	4
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	7	93	原発性胆汁性胆管炎	86
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	38
40	高安動脈炎	22	95	自己免疫性肝炎	92
41	巨細胞性動脈炎	14	96	クローン病	122
42	結節性多発動脈炎	17	97	潰瘍性大腸炎	302
43	顕微鏡的多発血管炎	27	98	好酸球性消化管疾患	25
44	多発血管炎性肉芽腫症	31	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	42	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	9	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	47	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	368	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	89	105	チャージ症候群	12
51	全身性強皮症	48	106	クリオピリン関連周期性熱症候群	0
52	混合性結合組織病	50	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	259	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人発症ステル病	34	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	46	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	80
113	筋ジストロフィー	200	163	特発性後天性全身性無汗症	37
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	18	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	3	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	6
117	脊髄空洞症	20	167	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	29
118	脊髄髄膜瘤	3	168	エーラス・ダンロス症候群	11
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	4
120	遺伝性ジストニア	2	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	8
123	HTRA1関連脳小血管病	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ベリー病	0	176	コフィン・ローリー症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	4	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	1	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	6
144	レノックス・ガストー症候群	3	194	ソトス症候群	3
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	8
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	67	208	修正大血管転位症	12
159	色素性乾皮症	51	209	完全大血管転位症	4
160	先天性魚鱗癬	4	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイルミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	61	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	6	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	35	266	家族性地中海熱	19
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	19	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	5
222	一次性ネフローゼ症候群	1	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	17
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	5
227	オスラー病	36	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	3
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	5
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	1	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	1	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	16	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	7	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	6	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	9	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	4
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	5	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	8	294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	イソ吉草酸血症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	1
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	9
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	1	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	4	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	32
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	5
254	ポルフィリン症	6	302	レーベル遺伝性視神経症	4
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	4	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	7	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	33

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
308 進行性白質脳症	2	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309 進行性ミオクローヌステんかん	19	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310 先天異常症候群	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
311 先天性三尖弁狭窄症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
312 先天性僧帽弁狭窄症	1	326 大理石骨病	2
313 先天性肺静脈狭窄症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314 左肺動脈右肺動脈起始症	0	328 前眼部形成異常	0
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/ LMX1B関連腎症	0	329 無虹彩症	1
316 カルニチン回路異常症	4	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1
317 三頭酵素欠損症	0	331 特発性多中心性キャッスルマン病	23
318 シトリン欠損症	5	332 膠様滴状角膜ジストロフィー	2
319 セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334 脳クレアチン欠乏症候群	0
		335 ネフロン癆	3
		336 家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合)	0
		337 ホモシスチン尿症	3
		338 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
		339 MECP2重複症候群	0
		340 線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
		341 TRPV4異常症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	189
合計患者数(人)	4990

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
情報通信機器を用いた診療に係る基準	精神科リエゾンチーム加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	摂食障害入院医療管理加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	栄養サポートチーム加算
歯科外来診療感染対策加算3	医療安全対策加算1
歯科外来診療感染対策加算4	感染対策向上加算1
歯科診療特別対応連携加算	患者サポート体制充実加算
特定機能病院入院基本料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
救急医療管理加算	ハイリスク妊娠管理加算
超急性期脳卒中加算	ハイリスク分娩管理加算
診療録管理体制加算2	呼吸ケアチーム加算
医師事務作業補助体制加算1	後発医薬品使用体制加算1
急性期看護補助体制加算	病棟薬剤業務実施加算1
看護職員夜間配置加算	病棟薬剤業務実施加算2
看護補助加算	データ提出加算
療養環境加算	入退院支援加算
重症者等療養環境特別加算	精神疾患診療体制加算
無菌治療室管理加算1	精神科急性期医師配置加算
無菌治療室管理加算2	排尿自立支援加算
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	地域医療体制確保加算
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	救命救急入院料1
緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料2
小児緩和ケア診療加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
精神科応急入院施設管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料
精神病棟入院時医学管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科身体合併症管理加算	小児入院医療管理料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
入院時食事療養/生活療養(I)	人工中耳植込術
ウイルス疾患指導料	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
糖尿病合併症管理料	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
がん性疼痛緩和指導管理料	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
がん患者指導管理料イ	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
がん患者指導管理料ロ	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
がん患者指導管理料ハ	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
がん患者指導管理料ニ	顎関節人工関節全置換術(歯科)
外来緩和ケア管理料	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
糖尿病透析予防指導管理料	乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
小児運動器疾患指導管理料	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
婦人科特定疾患治療管理料	乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
腎代替療法指導管理料	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料1	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料3	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
下肢創傷処置管理料	胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
慢性腎臓病透析予防指導管理料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
院内トリアージ実施料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来放射線照射診療料	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)

外来腫瘍化学療法診療料1	肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
連携充実加算	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ニコチン依存症管理料	内視鏡下筋層切開術
がん治療連携計画策定料	十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
がん治療連携計画策定料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
外来排尿自立指導料	胸腔鏡下弁形成術
ハイリスク妊産婦連携指導料1	胸腔鏡下弁置換術
ハイリスク妊産婦連携指導料2	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的 大動脈弁置換術)
肝炎インターフェロン治療計画料	経皮的僧帽弁クリップ術
こころの連携指導料(Ⅱ)	不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
薬剤管理指導料	経皮的中隔心筋焼灼術
医療機器安全管理料1	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医療機器安全管理料2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレス ペースメーカー)
医療機器安全管理料(歯科)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室 ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
歯科治療時医療管理料	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心 室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
救急患者連携搬送料	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込 型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・ 指導料の注2	植込型リードを用いるもの、植込型除細動器交換術(その他 のもの)及び経静脈電極抜去術
護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定 する専門管理加算	の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換 術(心筋電極の場合)
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交 換術(経静脈電極の場合)
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持 続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない 持続血糖測定器を用いる場合)	補助人工心臓
遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
染色体検査の注2に規定する基準	経皮的下肢動脈形成術
骨髄微小残存病変量測定	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
BRCA1/2遺伝子検査	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
がんゲノムプロファイリング検査	後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出 術、等
先天性代謝異常症検査	骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	内視鏡的逆流防止粘膜切除術

抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
検体検査管理加算(IV)	腹腔鏡下胃縮小術
国際標準検査管理加算	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
遺伝カウンセリング加算	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	体外衝撃波胆石破碎術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下肝切除術
胎児心エコー法	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ヘッドアップティルト試験	生体部分肝移植術
人工膵臓検査、人工膵臓療法	同種死体肝移植術
長期継続頭蓋内脳波検査	体外衝撃波膵石破碎術
長期脳波ビデオ同時記録検査1	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
単線維筋電図	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
神経学的検査	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
補聴器適合検査	腹腔鏡下膵中央切除術
全視野精密網膜電図	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
コンタクトレンズ検査料1	同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
小児食物アレルギー負荷検査	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内服・点滴誘発試験	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経頸静脈的肝生検	腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経気管支凍結生検法	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
口腔細菌定量検査	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
精密触覚機能検査	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
画像診断管理加算4	腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法

ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	同種死体腎移植術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	生体腎移植術
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
CT撮影及びMRI撮影	尿道狭窄グラフト再建術
冠動脈CT撮影加算	人工尿道括約筋植込・置換術
血流予備量比コンピューター断層撮影	精巣温存手術
心臓MRI撮影加算	精巣内精子採取術
乳房MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
頭部MRI撮影加算	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
全身MRI撮影加算	腹腔鏡下仙骨腔固定術
肝エラストグラフィ加算	腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
外来化学療法加算1	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
無菌製剤処理料	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	胎児胸腔・羊水腔シャント術
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	胎児輸血術及び臍帯穿刺
摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2	体外式膜型人工肺管理料
がん患者リハビリテーション料	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
歯科口腔リハビリテーション料2	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
経頭蓋磁気刺激療法	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
精神科作業療法	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
精神科ショート・ケア「小規模なもの」	伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	輸血管管理料Ⅰ
医療保護入院等診療料	貯血式自己血輸血管管理体制加算
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	コーディネート体制充実加算

医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	自己生体組織接着剤作成術
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	自己クリオプレシテート作製術(用手法)
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	同種クリオプレシテート作製術
エタノールの局所注入(甲状腺)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
エタノールの局所注入(副甲状腺)	歯周組織再生誘導手術
人工腎臓	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	歯根端切除手術の注3
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	口腔粘膜血管腫凝固術
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	レーザー機器加算
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	麻酔管理料(Ⅰ)
ストーマ合併症加算	麻酔管理料(Ⅱ)
磁気による膀胱等刺激法	周術期薬剤管理加算
手術用顕微鏡加算	放射線治療専任加算
口腔粘膜処置	外来放射線治療加算
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	高エネルギー放射線治療
歯科技工士連携加算2	一回線量増加加算
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	強度変調放射線治療(IMRT)
歯科技工加算1及び2	画像誘導放射線治療(IGRT)
皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	体外照射呼吸性移動対策加算
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	定位放射線治療
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	画像誘導密封小線源治療加算
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	保険医療機関間の連携による病理診断
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
椎間板内酵素注入療法	デジタル病理画像による病理診断
腫瘍脊椎骨全摘術	病理診断管理加算2
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	悪性腫瘍病理組織標本加算
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	クラウン・ブリッジ維持管理料
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	歯科矯正診断料
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)

角結膜悪性腫瘍切除術	看護職員処遇改善評価料60
角膜移植術(内皮移植加算)	外来・在宅ベースアップ評価料(I)
羊膜移植術	歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあ るもの))	入院ベースアップ評価料69
緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶 体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に 再発又は増悪したものに限る。)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであ り、単独で発生したものであって、その長径が三センチメー トルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)
毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ス テージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地か ら完全に切除されたと判断されるものに限る。)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるも の)	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤が ん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦 隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転 移及び遠隔転移のないものに限る。)
網膜再建術	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法 に抵抗性を有するものに限る。)
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	酸素の購入単価

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
新薬創出を加速する症例データベースの構築・拡充/創薬ターゲット推定アルゴリズムの開発	永野 達也	呼吸器内科学	8,213,010	補 委	厚生労働省
HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究	出口 雅士	地域医療ネットワーク学	1,000,000	補 委	厚生労働省
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学	900,000	補 委	国立保健医療科学院
医師の労働時間短縮のための手法に関する検討	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	400,000	補 委	厚生労働省
小児急性脳症の早期診断・最適治療・ガイドライン策定に向けた体制整備	永瀬 裕朗	小児科学	600,000	補 委	国立保健医療科学院
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	中村 誠	眼科学	800,000	補 委	厚生労働省
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	錦織 千佳子	皮膚科学	800,000	補 委	厚生労働省
データ駆動で地域の実情に応じて医療提供体制構築を推進するための政策研究	廣瀬 昌博	地域医療教育学	250,000	補 委	厚生労働省
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	児玉 裕三	消化器内科学	500,000	補 委	国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	100,000	補 委	国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	中西 裕子	眼科学	100,000	補 委	国立保健医療科学院
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野村 正	形成外科	300,000	補 委	国立保健医療科学院
難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形(リンパ管腫)・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	長濱 通子	皮膚科	200,000	補 委	国立保健医療科学院
スモンに関する調査研究	松本 理器	脳神経内科学	300,000	補 委	厚生労働省

小児腎領域の希少・難治性疾患群の 全国診療・研究体制の構築	野津 寛大	小児科学	300,000	補 委	国立保健医療科学 学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の 全国診療・研究体制の構築	森貞 直哉	小児科学	300,000	補 委	国立保健医療科学 学院
間脳下垂体機能障害に関する調査研 究	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科	250,000	補 委	国立保健医療科学 学院
難治性聴覚障害に関する調査研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外 科	100,000	補 委	国立保健医療科学 学院
神経皮膚症候群および色素性乾皮 症・ポルフィリン症の学際的診療体制 に基づく医療最適化と患者 QOL 向上 のための研究	久保 亮治	皮膚科学	1,000,000	補 委	国立保健医療科学 学院
神経皮膚症候群および色素性乾皮 症・ポルフィリン症の学際的診療体制 に基づく医療最適化と患者 QOL 向上 のための研究	錦織 千佳子	皮膚科学	1,000,000	補 委	国立保健医療科学 学院
神経皮膚症候群および色素性乾皮 症・ポルフィリン症の学際的診療体制 に基づく医療最適化と患者 QOL 向上 のための研究	上田 健博	脳神経内科学	1,000,000	補 委	国立保健医療科学 学院
がん対策推進基本計画の進捗管理に 資する評価指数の実装に向けた研究	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	300,000	補 委	厚生労働省
新規疾患の新生児マススクリーニン グに求められる実施体制の構築に関す る研究	篠原 正和	分子疫学	100,000	補 委	こども家庭庁
新規疾患の新生児マススクリーニン グに求められる実施体制の構築に関す る研究	坊 亮輔	小児科	100,000	補 委	こども家庭庁
慢性疼痛診療システム均てん化等事 業	溝渕 知司	麻酔科学	500,000	補 委	厚生労働省
がん患者に発症する心血管疾患・脳 卒中の早期発見・早期介入に資する 研究	平田 健一	循環器内科学	307,000	補 委	厚生労働省
がん患者に発症する心血管疾患・脳 卒中の早期発見・早期介入に資する 研究	今村 善宣	腫瘍・血液内科学	307,000	補 委	厚生労働省
誰一人取り残さないがん対策におけ る格差のモニタリングと要因解明に資す る研究	片岡 葵	分子疫学	300,000	補 委	厚生労働省
「世界モデルとなる自立成長型人材・ 技術を育む総合健康産業都市拠点」 に関する神戸大学による研究開発及 びプロジェクト推進	勝二 郁夫	副医学研究科長・医 学部長	25,560,600	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
全時代対応型遠隔メンタルヘルスケ アシステム(KOKOROBO-J)によるメン タルヘルスプラットフォームの開発・社 会実装拠点に関する神戸大学による 研究開発	菱本 明豊	精神医学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構

小計 15件

がん超早期・早期病変に対する細胞生物学的治療コンセプトの創出	南 康博	細胞生理学	43,600,700	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	児玉 裕三	消化器内科学	56,999,800	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
オミックス解析基盤の構築・多階層統合解析プラットフォーム・データベースの構築と運用	篠原 正和	疫学	16,924,700	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	今井 俊夫	消化器内科学	34,500,700	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
免疫系に着目した血管性認知症および混合型認知症における臓器間ネットワークの解明	松本 理器	脳神経内科学	44,200,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
臓器間ネットワークの変容を早期に観測可能な新規イメージング技術の開発とその応用による臓器間ネットワークの解明	仁田 亮	生体構造解剖学	7,670,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
動物を対象とした生体信号・感情状態計測	内匠 透	生理学	10,400,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
こころの可視化と操作を可能にする脳科学的基盤開発	内匠 透	生理学	7,800,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
マルチモーダルVRシステム構築と脳機能ネットワークの可視化/脳機能ネットワークの定量化	内匠 透	生理学	22,100,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
光遺伝学的ネットワーク操作法による脳活動予測の検証	内匠 透	生理学	19,500,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
子どもの虐待・自殺ゼロ化社会	菱本 明豊	精神医学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
子どもの虐待・自殺リスクの早期把握を可能にする初のバイオマーカー確立	大塚 郁夫	精神医学	14,300,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
AMPA-PETデータと網羅的DNAメチル化データの相関の同定	大塚 郁夫	精神医学	799,500	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
被虐待～自殺傾性のエピゲノム異常・シングルセル遺伝子発現異常の同定	古屋敷 智之	薬理学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
福祉・医療現場に導入可能なロボットの設計とシステム構築と実用化	村垣 善浩	未来医工学研究開発センター	51,571,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
説明できるAIの基盤技術開発/モジュール型モデルによる深層学習のホワイトボックス化	村上 卓道	放射線診断学	2,551,000	補 委	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

小計 17件

自然免疫系細胞の制御による新規がん免疫療法の研究開発	的崎 尚	生体シグナル制御学	59,400,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
医療機器開発における“日本型エコシステム”推進を目指した拠点整備事業	眞庭 謙昌	病院長	19,294,999	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
左心負荷を伴わず血管合併症も軽減し得る低侵襲ECMOの研究開発	小西 明英	臨床研究推進センター	32,699,999	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
高頻拍ペーシングなしでの大動脈弁頻回拡張を可能にする「心電図同期型」経皮の大動脈弁拡張システムに関する研究開発	小西 明英	臨床研究推進センター	25,999,999	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク・ネットワーク構築とバイオバンク利活用促進に関する研究開発	松岡 広	バイオリソースセンター	3,900,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
癌抑制ドライバージェノムを標的とする抗癌剤開発	鈴木 聡	生化学・分子生物学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
色素性乾皮症患者由来iPS細胞を用いた抗老化剤の開発	福本 毅	皮膚科学	1,925,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
生体類似材料コーティングによる異物付着抑制効果を有した尿管ステントの開発	重村 克巳	体内医療機器学	2,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成に関する研究	森 康子	感染症センター	80,860,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
サンバーン増強型の色素性乾皮症を対象とした既存薬による新規治療の効果と安全性を評価する医師主導治験	錦織 千佳子	皮膚科学	78,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
慢性ストレス・老化による脳機能変容の炎症性機序の解明	古屋敷 智之	薬理学	40,170,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
レポーターHBVを駆使したB型肝炎ウイルス増殖機構の解析と創薬ターゲットの探索・同定に資する研究	勝二 郁夫	感染制御学	92,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
運動効果模倣薬の開発を目指した運動による生活習慣病改善機構の解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学	9,750,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
免疫細胞による精神病理の操作を目指して	内匠 透	生理学	39,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
自己免疫網膜症を対象とした多施設共同研究による診断・治療エビデンスの創出	楠原 仙太郎	眼科学	12,870,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発	菱本 明豊	精神医学	7,670,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

小計 17件

師匠の背中を見て育つをデジタル化する研究開発	植村 宗則	国際がん医療・研究推進学	6,044,636	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群早期再発例の長期寛解導入を目指したリツキシマブ療法開発研究	野津 寛大	小児科学	7,800,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
神経-腸管軸を介した不動化性筋量減少メカニズムの解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
画像認識AIによる細菌感染症の菌種分類精度向上と抗菌薬適正使用に関する臨床研究	大路 剛	感染治療学	6,666,660	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
B型肝炎ウイルス持続感染実験モデルを用いた病態解明及び新しい治療法の開発に資する研究	勝二 郁夫	感染制御学	1,950,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
子宮頸がん診断における画像強調併用拡大軟性内視鏡の実装化を目指した研究	寺井 義人	産科婦人科	377,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	野津 寛大	小児科学	5,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
2型糖尿病の発症予防を目指すヘルスケアサービスの適正評価確立のための研究	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
臨床開発を目指したベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査研究	坊 亮輔	小児科	195,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
母子感染のリスク評価と先天性感染の新たな診断・予防法の開発研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,040,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
倍数性変動と細胞老化エスケープを標的とした、肝発癌・薬剤耐性化を阻害する新規治療戦略の探索	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
膠芽腫の標準治療後病勢を診断する血液バイオマーカーの実用化	篠山 隆司	脳神経外科学	390,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脂肪肝を背景とする代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	勝二 郁夫	感染制御学	3,900,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究	藤岡 一路	小児科学	1,950,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
薬剤性パーキンソニズムのファーマコゲノミクスに関する医療実装開発	大塚 郁夫	精神医学	5,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	谷口 悠	循環器内科	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

小計 17件

患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究	谷口 悠	循環器内科	520,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	野津 寛大	小児科学	11,050,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	野津 寛大	小児科学	11,050,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脈管異常の皮膚病変に対するシロリムスゲルの多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、無作為化、並行群間比較試験	久保 亮治	皮膚科学	910,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する第III相試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
薬事承認申請をめざした福山型筋ジストロフィーにおけるアンチセンス核酸NS-035の第1/2相試験(ステップ2)	小林 千浩	分子脳科学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
MAGE-A4抗原を発現する切除不能進行・再発腫瘍に対するCAR-T細胞療法の医師主導第I相治験	清田 尚臣	腫瘍センター	1,040,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	村垣 善浩	未来医工学研究開発センター	130,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
先天性および若年発症の視覚聴覚二重障害の難病に対する診療エビデンスの創出	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	520,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
福山型先天性筋ジストロフィー患者における内服ステロイド薬の第II相治験	栗野 宏之	小児科学	2,990,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
抗インテグリン α V β 6自己抗体測定による潰瘍性大腸炎の診断・病勢評価のエビデンス創出研究	児玉 裕三	消化器内科学	1,170,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍センター	195,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
心臓サルコイドーシス患者における診療の実態調査、および治療不応例・再発例に関する新規予測プログラムの開発と前向きレジストリによる検証	平田 健一	循環器内科学	455,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
新規肝臓免疫オルガノイドモデルの開発と本モデルを用いたHBs抗体誘導によるCHB functional cure達成方法の確立	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
先天性有機酸血症の新治療薬による医師主導治験研究	坊 亮輔	小児科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
静脈奇形に対するモノエタノールアミンオレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性を評価する医師主導治験	野村 正	形成外科	1,427,452	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

小計 17件

食道癌術後患者を対象とした外来がんリハビリテーションプログラムの開発に関する研究	後藤 裕信	食道胃腸外科	611,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
頭頸部癌化学放射線療法における予防領域照射の線量低減に関するランダム化比較試験に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	1,040,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
医療費適正化に資する前立腺癌病巣標的化凍結治療・医師主導治験	高橋 哲	放射線医学	552,500	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
網膜色素変性を対象とした経皮膚電気刺激の有効性及び安全性に関する検証的試験	中村 誠	眼科学	40,040	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
循環器疾患におけるヘルスケアサービスの有効性に関するエビデンスの整理と指針作成	平田 健一	循環器内科学	650,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
循環器疾患におけるシングルセルマルチオミクス層別化の実現	平田 健一	循環器内科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
脂肪肝関連疾患にともなう動脈硬化性心血管疾患の二次・三次予防に資するヘルスケアサービスの指針策定およびシステム開発に関する研究	田守 義和	健康創造推進学	1,040,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
QbDの概念が導入された業務フローの活用による多職種連携の研究計画支援体制・方法の汎用化に向けた検討	真田 昌爾	臨床研究推進センター	975,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ゲノム不安定性疾患群を中心とした超希少難治性疾患の原因究明・病態理解とマルチオミクス情報を活用した創薬基盤の構築・運営	錦織 千佳子	皮膚科学	2,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
肺高血圧症患者レジストリとマルチオミクスデータベースを活用した難病デジタルツインモデルの構築	谷口 悠	循環器内科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
造影病変全切除可能な初発膠芽腫に対する標準的手術法確立に関する研究	篠山 隆司	脳神経外科学	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
高齢者難治性骨髄疾患を担う神経ネットワークの探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	片山 義雄	血液内科	61,594,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
若年期体細胞モザイクの発生要因・拡大原理の解明とその制御による新規治療基盤の創出	久保 亮治	皮膚科学	16,900,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ストレスレジリエンスの個体差を生み出す分子・神経回路基盤の解明	篠原 亮太	薬理学	18,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
革新的化合物探索・合成手法による新規抗菌アジュバントの創出	今崎 剛	生体構造解剖学	12,480,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
老化研究支援・推進に関する研究開発	南 康博	細胞生理学	60,320,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

小計 17件

神経細胞とグリア細胞の老化制御機構の解明とそのアルツハイマー型認知症の診断・治療法の開発への応用	千原 典夫	脳神経内科	11,972,905	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
核内膜プロテオスタシスの制御	有井 潤	臨床ウイルス学	39,390,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
個体老化における視床下部タニサイトのネクチン-1の機能と作用機構	清水 達太	細胞生理学分野病態 シグナル学部門	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明/神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明	南 康博	細胞生理学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸内細菌と老化細胞のクロストークが引き起こす加齢に伴う恒常性破綻機構の解明とその制御	遠藤 光晴	細胞生理学	15,600,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
加齢に伴うホスホイノシチド変容と老化・疾病の本態解明	鈴木 聡	分子細胞生物学	4,680,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ヒト心不全における心筋DNA損傷の病的意義の解明とその制御	仁田 亮	生体構造解剖学	3,250,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
疾患特異的iPS細胞を用いた先天性中枢性低換気症候群における低CO2感受性の分子機構	藤岡 一路	小児科学	19,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
FCMD及びび類縁疾患のiPSCs由来三次元培養法による疾患モデルを駆使した病態評価と低分子治療法開発	青井 三千代	幹細胞医学	5,200,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
レジストリ連携による神経変性疾患iPS細胞コホートの構築と整備/患者リクルート・付随情報整備	錦織 千佳子	皮膚科学	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発/課題1(2):リパースタンスレシヨナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーム制御基盤技術開発-マイクロバイオーム創薬エコシステム構築に向けて-	南 博信	腫瘍・血液内科学	6,500,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発/課題1(2):リパースタンスレシヨナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーム制御基盤技術開発-マイクロバイオーム創薬エコシステム構築に向けて-	児玉 裕三	消化器内科学	14,300,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
廃用性筋萎縮の発症・進展抑制薬の探索	小川 涉	糖尿病・内分泌内科学	15,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
色素性乾皮症A群の新規治療薬の探索	辻本 昌理子	皮膚科学	5,005,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
造血幹細胞機能維持体外細胞増幅技術の開発	宮西 正憲	小児科学分野造血幹 細胞医療創成学部門	9,100,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
腸-脳機能コネクティクスによる腸内感覚の機能解明と操作	榎本 秀樹	神経分化・再生	33,150,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構

小計 17件

微小管を軸とした細胞極性形成機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学	2,730,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
医工融合による低侵襲・高解像な感音難聴の精密診断の実現	藤田 岳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	9,100,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
線維症の時空間的動態解析による新規治療法の開発	菊田 順一	免疫学	8,339,500	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
スモールデータ型AIによる創傷診断システムの開発	寺師 浩人	形成外科学	2,470,000	補 委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤と遺伝子治療の併用による頭頸部癌に対する治療法の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	4,160,000	補 委	日本学術振興会
自己抗原の同定に基づいた消化器系難病の病態解明と新しい診療体系の確立	児玉 裕三	消化器内科学	5,070,000	補 委	日本学術振興会
シワ性神経幹細胞の生理と病態解明	榎本 秀樹	神経分化・再生	5,590,000	補 委	日本学術振興会
細胞の極性を担う非中心体性微小管ネットワーク形成機構	仁田 亮	生体構造解剖学	5,590,000	補 委	日本学術振興会
皮質脳波コネクトーム解析による脳内言語表現の同定と脳切除後の可塑的再構築の解明	松本 理器	脳神経内科学	5,330,000	補 委	日本学術振興会
福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患の病態解析と治療法・薬効評価法の開発	小林 千浩	分子脳科学	4,940,000	補 委	日本学術振興会
吸収性スプレーを用いた体内空間可変・定位放射線治療の実用化研究	佐々木 良平	放射線腫瘍学	5,460,000	補 委	日本学術振興会
Mo-99/Tc-99m国産化を実現するメソポーラスアルミナ吸着材の開発	福光 延吉	放射線腫瘍学	2,730,000	補 委	日本学術振興会
水痘帯状疱疹ウイルス潜伏感染・再活性化機構の解明	定岡 知彦	臨床ウイルス学	2,860,000	補 委	日本学術振興会
神経回路可視化と光操作による薬物依存形成脳内機構の解明	橘 吉寿	生理学	3,380,000	補 委	日本学術振興会
終末期患者のQOL向上を目指した呼吸困難治療アルゴリズム作成に関する研究	山口 崇	緩和支援治療科	2,990,000	補 委	日本学術振興会
造血幹前駆細胞の時空間的移動ダイナミズムの解明と制御	片山 義雄	血液内科学	5,070,000	補 委	日本学術振興会

小計 17件

癌抑制ドライバー経路の制御機構	鈴木 聡	分子細胞生物学	10,140,000	補委	日本学術振興会
自然免疫制御によるがん細胞の生存・維持の分子基盤の解明	的崎 尚	生体シグナル制御学	5,070,000	補委	日本学術振興会
心の健康を増進するレジリエンスの生物学的基盤の解明	古屋敷 智之	薬理学	11,290,000	補委	日本学術振興会
自閉症ヒト脳オルガノイドの表現解析による病態の基礎的理解	内匠 透	生理学	13,520,000	補委	日本学術振興会
クロススケール細胞内分子構造動態解析が解明する細胞骨格ネットワーク構築とその破綻	仁田 亮	生体構造解剖学	21,020,000	補委	日本学術振興会
ヒト高次運動機能の超適応:皮質脳波コネクトミクスによる脳切除後の潜在回路の解明	松本 理器	脳神経内科学	3,510,000	補委	日本学術振興会
大腸癌に対する腫瘍免疫活性を増強するエピジェネティクス標的薬の探索と作用機構解明	青井 貴之	幹細胞医学	4,160,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病発症に係るユビキチンリガーゼ関連分子を制御するmiRNAの治療応用	大村 友博	薬剤部	1,560,000	補委	日本学術振興会
安静時functional MRIを用いた意識の可視化	岡田 雅子	麻酔科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
腎癌WT1経口ワクチンによる免疫チェックポイント阻害薬の制癌性増強作用の解明	植木 秀登	腎泌尿器科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
pachychoroid疾患の病態解明	三木 明子	眼科学	2,210,000	補委	日本学術振興会
動静脈奇形の悪化に機械刺激は関与するののか	野村 正	形成外科学	2,210,000	補委	日本学術振興会
RNA解析を用いた小児腎疾患と感染症の関連解明研究	堀之内 智子	小児科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
唾液腺癌における免疫微小環境の特徴と免疫関連バイオマーカーの探索	清田 尚臣	腫瘍センター	2,210,000	補委	日本学術振興会
糖尿病状態の膵β細胞における膵腺房細胞への脱分化発症機序の解明	木村 真希(小柳真希)	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
エピゲノムによる細胞老化制御から読み解くメタノサイトの恒常性破綻と発がん機構	藤原 進	皮膚科学	1,300,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

ドライバー遺伝子に基づくTACE治療反応性の血清バイオマーカーの開発	上嶋 英介	放射線医学	2,340,000	補委	日本学術振興会
放射線応答エクソソームによる直腸癌 Total neoadjuvant therapy (TNT) の治療効果予測	佐々木 理栄	放射線腫瘍学	1,560,000	補委	日本学術振興会
放射線応答エクソソームによる直腸癌 Total neoadjuvant therapy (TNT) の治療効果予測	長谷川 寛	食道胃腸外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
ビデオスベクトルカメラを用いた新規肝胆膵外科手術ナビゲーションシステムの研究開発	浦出 剛史	肝胆膵外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
副作用のない麻酔薬の開発を目的としたアセチルコリン受容体の分子構造解析	田口 真也	麻酔科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
進行がん患者の生存期間予測尺度の特定状況における診断精度の検証	赤谷 麻美	緩和と支持治療科	650,000	補委	日本学術振興会
周術期せん妄と神経保護作用を持つプロスタグランジンD2との関連性に迫る	白川 尚隆	麻酔科学	2,470,000	補委	日本学術振興会
低酸素環境下にあるグリオーマ細胞の膜脂質代謝リモデリングと分子機構の解析	田中 一寛	脳神経外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
難治性局所進行乳がんに対する金属ナノ粒子併用・超高線量率放射線治療法の開発	椋本 成俊	放射線腫瘍学	1,170,000	補委	日本学術振興会
消化管における逆行性グルコース輸送機構の分子機構および生理的意義の解明	菅原 健二	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
成人先天性心疾患特有の右室心筋障害の進展に関わる分子の同定および新規治療法の探索	福田 旭伸	循環器内科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
PICSにおける好中球の筋肉内浸潤の病態解明と好中球遊走制御による新たな治療法の確立	小谷 穰治	災害・救急医学	1,560,000	補委	日本学術振興会
術前化学放射線療法後直腸癌の空間的解析による治療効果予測因子の探索	山下 公大	食道胃腸外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
生体イメージングを用いた術後認知機能障害の機序解明	杉野 太亮	麻酔科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
遊離分割リンパ節移植術の開発	上田 美怜	形成外科学	3,120,000	補委	日本学術振興会
独自に見出した新規因子が関わる母児間鉄代謝制御機構の解明	森岡 裕香	附属動物実験施設	1,560,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

がん早期治療の創出に向けたプロテインキナーゼCによる新たながん化メカニズムの解明	梶本 武利	生化学・シグナル統合学	2,080,000	補委	日本学術振興会
アディポネクチンによる椎間板変性・炎症に対する治療法の開発	張 鍾穎	整形外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
MOB1によるHippo経路非依存的な脂肪分解制御機構の解明	西尾 美希	分子細胞生物学	1,430,000	補委	日本学術振興会
自閉症中間表現型としての樹状突起スパイン動態の解析	玉田 紘太	生理学	1,300,000	補委	日本学術振興会
YAP転写複合体制御機構の解明とその応用	大谷 淳二	分子細胞生物学	1,430,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌に対する免疫療法の治療効果を予測する非侵襲的バイオマーカー開発	村上 卓道	放射線医学	1,950,000	補委	日本学術振興会
虚血性心疾患法医剖検例におけるシングルセルRNAシーケンス解析	近藤 武史	法医学	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒト尿中落下細胞及び新生仔マウス腎を用いた新生児偽性低アルドステロン症の病態解明	藤岡 一路	小児科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
新規血管新生促進剤を応用した「パイオ人工膝」移植の確立	浅利 貞毅	肝胆膵外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
大腸癌肝転移巣制御に対する新規個別化免疫療法の確立	裏川 直樹	食道胃腸外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
好中球に着眼したシェーグレン症候群の新規病理分類提案と治療薬探索	後藤 育子	口腔外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
マルチオミクス解析を用いた副腎不全の病態解明と新規バイオマーカーの同定	山本 雅昭	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
社会ストレスによる脳代謝リモデリングの実態と機序、意義の解明	永井 裕崇	薬理学	1,560,000	補委	日本学術振興会
ネオ・セルフ抗体による不妊症、子宮内膜症の病態解明と治療法の確立	山田 秀人	産科婦人科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
アナモレリンによる免疫チェックポイント阻害剤の抗腫瘍効果増強とその作用機序の解明	立原 素子	呼吸器内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
顎骨壊死に対する腐骨分離促進療法法の探索	明石 昌也	口腔外科学	2,210,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

新たなHDL機能指標による高HDLコレステロール血症におけるリスク評価法の構築	杜 隆嗣	循環器内科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
遺伝性腎疾患におけるスプライシング異常の影響の全容解明および治療法の開発	野津 寛大	小児科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
プロスタグランジン合成酵素に着目したクローン病の新規治療法の開発	大井 充	消化器内科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
腹部大動脈瘤の炎症細胞から見る成因解析と新たな治療ターゲットの模索	山中 勝弘	心臓血管外科学	2,470,000	補委	日本学術振興会
阪神地域の胸水貯留患者への胸水細胞診を用いた早期中皮腫の同定に関する研究	河原 邦光	地域連携病理学	2,210,000	補委	日本学術振興会
オキソ脂肪酸がつなが「脳・こころ」ストレスと動脈硬化疾患	篠原 正和	分子疫学	1,950,000	補委	日本学術振興会
脳内T細胞と神経新生に着目した敗血症に伴う精神障害の治療戦略の構築	齋藤 雅史	災害・救急医学	1,690,000	補委	日本学術振興会
小児痙攣性麻痺の内転筋痙縮に対する拡散型圧力波治療とボツリヌス毒素治療の併用効果	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学	3,770,000	補委	日本学術振興会
OCRL異常の病態解明とLowe症候群に対する酵素補充療法の開発	榊原 菜々	小児科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
ミクログリアの性質変化に着目したストレスによる神経回路異常の解明	谷口 将之	薬理学	1,690,000	補委	日本学術振興会
膵及び十二指腸切除後のアミノ酸代謝の変化の解析と新規栄養療法の開発	外山 博近	未来医工学研究開発センター	1,950,000	補委	日本学術振興会
リンパ浮腫患者の複合的治療へのアドヒアランス促進Web版行動変容プログラムの開発	井上 順一郎	リハビリテーション部	3,120,000	補委	日本学術振興会
家族内発症に着目したアカシアの遺伝子異常の探索および病態解明	阪口 博哉	消化器内科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
人工知能イメージサイトメトリーを用いた食道癌の腫瘍免疫微小環境の解析	清水 将来	食道胃腸外科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
RNA網羅的解析に基づいた食道癌に対する内視鏡治療後狭窄の病態解明	吉崎 哲也	消化器内科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
ジストロフィンDp71欠失がミトコンドリア機能に与える病態の解明	坊 亮輔	小児科学	1,170,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

心臓大血管手術患者における溶血による血管内皮障害への影響とその予防に関する検討	法華 真衣	麻酔科学	1,950,000	補委	日本学術振興会
大規模医用画像データセットを用いた多タスク対応画像-自然言語対応モデルの開発	松尾 秀俊	放射線医学	910,000	補委	日本学術振興会
多発性硬化症患者の予後予測因子となる共抑制性分子の同定	古東 秀介	脳神経内科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
骨転移患者の就労阻害因子の同定と至適支援方法の確立	澤田 良子	整形外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来抑制性細胞に着目した胃癌腹膜播種の病態解明と治療抵抗性の克服	後藤 裕信	食道胃腸外科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
光干渉断層法とシングルセル解析を用いた下肢閉塞性動脈疾患の病因解明と予防法の開発	鳥羽 敬義	循環器内科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
悪性リンパ腫の中樞神経再発リスク遺伝子同定のための研究	北尾 章人	腫瘍・血液内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
Neddylation制御は関節リウマチおよびリウマチ肺の新規治療ターゲットとなりうるか	千藤 荘	膠原病リウマチ内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
下肢原発性悪性骨軟部腫瘍における術後患肢機能の前向き調査と標準評価の開発	牧浦 大祐	医療技術部リハビリ・歯科部門	650,000	補委	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎における好塩基球の機能解明のための研究	今村 真也	皮膚科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
術後維持輸液管理の選択が術後血管内皮機能とせん妄に及ぼす影響	古島 夏奈	麻酔科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
高感度PIVKA-II測定による新生児ビタミンK欠乏症診断法の確立と危険因子の同定	芦名 満理子	小児科学	780,000	補委	日本学術振興会
ARDS患者のセボフルランでの鎮静による予後改善効果の検討と免疫学的機序の解明	西村 太一	麻酔科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
リアルワールドデータを用いたポリファーマシー動向の時系列解析と地域是正モデル構築	木村 丈司	薬剤部	3,770,000	補委	日本学術振興会
色素性乾皮症患者の紫外線発癌予防を目的とした日用品の遮光評価基準確立と有用性検証	山野 希	皮膚科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
筋板形成機構の破綻に着目した胃癌浸潤過程の全容解明	上原 慶一郎	病理診断学	2,210,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

涙液を用いた胃癌術後再発例の早期検出法の開発	原田 仁	食道胃腸外科学	2,470,000	補委	日本学術振興会
独自の検体採取法による食道アカシアの筋間神経叢の組織・遺伝子解析による病態解明	阿部 洋文	消化器内科学	1,950,000	補委	日本学術振興会
高リスク神経芽腫患者における末梢血微小残存病変の動態と臨床的意義の解明	二野 菜々子	小児科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
高脂肪食による脂肪性肝疾患や消化器癌における腸管上皮LAT1の意義についての検討	吉田 竜太郎	消化器内科学	2,210,000	補委	日本学術振興会
電気生理、イメージング技術を統合したてんかんにおけるネットワーク病態の解明	十河 正弥	脳神経内科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌と腸内細菌由来脂肪酸の網羅的解析による関節リウマチの治療標的の探索	山田 啓貴	膠原病リウマチ内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
自閉症における感覚モグリティの皮質機能ネットワーク解析	中井 信裕	生理学	2,340,000	補委	日本学術振興会
早産児腹膜炎マウスモデルにおける腹腔マクロファージの機能病態解析	宮内 玄德	小児外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
筋線維芽細胞のアポトーシス誘導による放射線性顎骨壊死の新規治療法の探索	齊藤 泉	口腔外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
老化長期造血幹細胞解析で顕在化した造血不全細胞の発生メカニズムの解明	西 克幸	小児科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
エネルギー供給能に着目した口腔粘膜創傷治癒機構の解明	伊賀 利香	口腔外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
糖鎖異常型筋ジストロフィーに対するプロドラッグを用いた新規治療法開発	徳岡 秀紀	脳神経内科学	2,990,000	補委	日本学術振興会
脳梗塞の回収血栓を利用した病型同定バイオマーカーの探索	今堀 太一郎	脳神経外科学	910,000	補委	日本学術振興会
免疫性神経疾患における病態保護的B細胞誘導療法の開発	赤谷 律	脳神経内科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
脂肪組織におけるLTA4Hのインスリン感受性制御機構の解明	細川 友誠	糖尿病・内分泌・総合内科学	2,210,000	補委	日本学術振興会
炎症とマイクロRNAのクロストークから導く熱性けいれん重積の病態解明	徳元 翔一	小児科学	1,560,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

パンデミック下での前立腺癌の放射線治療休止に直面した際の克服手段に関する提案	川口 弘毅	放射線腫瘍学	1,040,000	補委	日本学術振興会
大腸癌腫瘍関連B細胞由来抗体を用いたキメラ抗原受容体T細胞の作成	高井 亮	食道胃腸外科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
野生型トランスサイレチン型心アミロイドーシスの簡易診断法の確立	長尾 学	循環器内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
持続脳波による急性脳症のNCSの病態と神経傷害機構の解明	山口 宏	小児科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
下垂体神経内分泌腫瘍に対するソマトスタチン抵抗性機序の解明	志智 大城	糖尿病・内分泌・総合内科学	910,000	補委	日本学術振興会
食食制御分子であるSIRP α を標的とした難治性神経芽腫の新規治療開発	田村 彰広	小児科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
外科手術における技術習得の効率化と均てん化を実現する熟練手技モデル開発	山口 智子	未来医工学研究開発センター	2,990,000	補委	日本学術振興会
紫外線による多段階皮膚発癌における網羅的遺伝子解析	国定 充	皮膚科学	910,000	補委	日本学術振興会
小胞体の形態変化を起点とする代謝リプログラミングに関する研究	山本 泰憲	膜動態学	1,430,000	補委	日本学術振興会
ユビキチン化反応によりERファジーが終結する分子機構	梶保 博昭	膜動態学	1,170,000	補委	日本学術振興会
アストロサイトの細胞間接着分子による神経回路の維持と破綻の制御機構	宮田 宗明	病態シグナル学部門	1,560,000	補委	日本学術振興会
ファーマコメトリクスを用いた免疫抑制剤の個別化投与設計法の構築	糸原 光太郎	薬剤部	1,300,000	補委	日本学術振興会
シュワン細胞による腸管神経系の再形成の誘導	上坂 敏弘	神経分化・再生	780,000	補委	日本学術振興会
脊髄小脳変性症でのPKC ζ 酸化を介した神経保護機構の解明と新規治療法への応用	白藤 俊彦	生理学	910,000	補委	日本学術振興会
小胞体流動の分子メカニズムに関する研究	匂坂 敏朗	膜動態学	1,430,000	補委	日本学術振興会
トキソプラズマ寄生胞膜の破壊を先導するIRGB6とGBPの分子構造と機能の解析	西條 由見子(濱野由見子)	生体構造解剖学	1,170,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

B型肝炎ウイルスRNAの分解に関わる新規Nrf2-Prdx1経路の解析	デン リン	感染制御学	1,040,000	補委	日本学術振興会
DKK1/CKAP4シグナルを標的とした肝細胞癌に対する新規抗癌治療の開発	権 英寿	肝胆膵外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
がん早期診断における涙液エクソソームの有用性の検討	犬伏 祥子	乳腺内分泌外科学	910,000	補委	日本学術振興会
MIFに着目した低酸素暴露と統合失調症を結ぶ分子メカニズムの解明	岡崎 賢志	精神医学	1,040,000	補委	日本学術振興会
大学生の末梢血テロメア長を用いた若年自殺リスクマーカーの確立	毛利 健太郎	精神医学	780,000	補委	日本学術振興会
過酸化チタンナノ粒子と腫瘍標的エクソソームで運搬する新規免疫放射線増感療法の開発	西村 英輝	放射線腫瘍学	1,560,000	補委	日本学術振興会
粒子線治療用ヘリウムイオン(Helium Ion)CT画像システムの新規開発	王 天縁	放射線腫瘍学	780,000	補委	日本学術振興会
細胞・細胞間の放射線応答を予測するエクソソーム由来miRNAの網羅的解析	小林 加奈	放射線腫瘍学	1,560,000	補委	日本学術振興会
微小気泡を利用したナノ粒子放射線増感治療法の高効率化	中山 雅央	放射線腫瘍学	1,300,000	補委	日本学術振興会
3次元医用画像からの臓器自動抽出:人工知能が出力する確信度は精度改善に有用か?	堀 雅敏	放射線医学	1,300,000	補委	日本学術振興会
門脈血流・肝機能定量MRIによる分離門脈血流・肝機能評価の検討	小松 昇平	肝胆膵外科学	650,000	補委	日本学術振興会
脳内全細胞を対象とした自閉症・統合失調症の新規創薬ターゲットの同定	野村 淳	生理学	2,210,000	補委	日本学術振興会
内皮型一酸化窒素合成酵素に着目した下痢関連溶血性尿毒症症候群の病態解明研究	忍頂寺 毅史	小児科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
B型・C型肝炎ウイルスの遺伝子変化の特徴と病態との関連性の解明	上田 佳秀	消化器内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
胸腹部大動脈術後脊髄再灌流障害の新たな細胞障害機序の解明と治療法の開発	中井 秀和	心臓血管外科学	780,000	補委	日本学術振興会
心不全におけるグルタミン代謝制御機構の解明と新規治療戦略の構築	小林 成美	循環器内科学	1,040,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

冠動脈プラーク内部に発生する応力評価を用いた高リスクプラーク同定の試み	大竹 寛雅	循環器内科学	780,000	補委	日本学術振興会
KIAA1462/JCADを標的としたARDSの革新的治療法の開発	小林 和幸	呼吸器内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
クロマチンリモデリングから解き明かす造血幹細胞のエピジェネティクス制御	仁田 英里子	生体構造解剖学	1,300,000	補委	日本学術振興会
細胞外小胞に着目した膠原病の新規診断法および治療法の開発	三枝 淳	膠原病リウマチ内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
運動で活性化され、加齢で減弱する骨格筋リモデリングプロセスのメカニズム	野村 和弘	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いた自己免疫性下垂体疾患の病態解明	井口 元三	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒト大腸における外ホルミンのグルコース排泄機構の解明	坂口 一彦	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
涙液を用いた新しい乳癌早期診断法の確立	國久 智成	乳腺内分泌外科学	910,000	補委	日本学術振興会
腹腔鏡下手術におけるAIを用いた自動追尾カメラシステムの開発	金治 新悟	食道胃腸外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
切除可能進行胃癌患者に対する術前化学療法における免疫活性バイオマーカーの開発	松田 佳子	食道胃腸外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
涙を用いた大腸癌術後再発早期検出法の開発とその応用	松田 武	食道胃腸外科学	910,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナルに基づく新たな直腸癌化学放射線免疫複合療法の試み	古出 隆大	食道胃腸外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
放射光位相差X線CT法による心構造疾患群の構造解析に関する研究	築部 卓郎	心臓血管外科学	520,000	補委	日本学術振興会
iPS技術を用いた縦隔原発肉腫に対する個別化精密医療の確立	田中 雄悟	呼吸器外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
線維筋痛症におけるIgGを介した病態メカニズムの解明	野村 有紀	麻酔科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
帯状疱疹後神経痛におけるfunctional MRIによる脊髄刺激療法の効果予測	佐藤 仁昭	麻酔科学	260,000	補委	日本学術振興会

脳波・炎症マーカー・脳血流の解析によるAESD発症早期の病態・発症トリガーの解明	永瀬 裕朗	小児科学	845,000	補委	日本学術振興会
炭酸ガスを利用したロコモティブシンドロームに対する新たな予防・治療法の開発	福井 友章	整形外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
人工骨肉腫幹細胞を用いた骨肉腫新規治療の開発	河本 旭哉	整形外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
KLF15発現制御による変形性関節症に対する治療への挑戦	林 申也	整形外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
mTORC1制御による椎間板変性遺伝子・薬物治療法の開発	由留部 崇	整形外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
甲状腺高分化癌の未分化形質獲得機構の解明及び新規バイオマーカーの検討	稲瀬 安希	腫瘍・血液内科学	910,000	補委	日本学術振興会
乳酸シヤトル概念に基づく網膜・視神経変性疾患の病態解明と治療法の探索	中村 誠	眼科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜神経変性におけるアクアポリン9の役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
網膜内に析出するフィブリノーゲンに着目した糖尿病黄斑浮腫の病態解明	今井 尚徳	眼科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
プラスミドベクターを用いた抗菌ペプチドの局所導入と創傷治療への応用	楠原 俊介	形成外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
環境因子による細胞内シグナル増強と腫瘍悪性化についての相関の解明	楠原 晶子	口腔外科学	780,000	補委	日本学術振興会
統合オミックス解析による口腔がん制御機構の解明と創薬標的の網羅的探索	木本 明	口腔外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
軟組織接着性タンパク質の接着力向上と中心静脈ポート固定への応用	柳本 泰明	肝胆膵外科学	650,000	補委	日本学術振興会
ヒトヘルペスウイルス6感染に必須なウイルスリガンドの立体構造決定と機能解析	西村 光広	臨床ウイルス学	1,300,000	補委	日本学術振興会
シヌクレインパチーにおける細胞外 α シヌクレインによる新規病変伝播機構の解明	岡田 太郎	生化学・シグナル統合学	1,170,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞障害を改善する新規機能分子の取得	長坂 明臣	小児科学	1,690,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

周産期母児における抗精神病薬治療の適正化のためのファーマコメト릭ス	矢野 育子	薬剤部	1,430,000	補委	日本学術振興会
クライオ電子顕微鏡解析による転写メダイエーター複合体の転写制御機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学	1,430,000	補委	日本学術振興会
慢性ストレスによる行動変容の多様性を生み出す神経回路メカニズムの解明	篠原 亮太	薬理学	1,430,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境における細胞間シグナルによる腫瘍免疫制御	村田 陽二	生化学・シグナル統合学	1,040,000	補委	日本学術振興会
癌細胞と間質細胞との直接接触による細胞間相互作用を介した食道癌の進展機構の解析	粕 雄一朗	病理学	1,560,000	補委	日本学術振興会
前肢に存在する「神経様細胞」の異常産生と、神経芽腫発症の共通分子基盤を探る	伊藤 圭祐	神経分化・再生	1,430,000	補委	日本学術振興会
機能性MDSCを標的とした新しいがん免疫療法の開発	船越 洋平	腫瘍・血液内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
過敏性腸症候群の腸管透過性の亢進を制御する腸内細菌および宿主の病態解析	井上 潤	消化器内科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
人工知能を用いた肺癌CT自動診断システム開発とスクリーニング・早期診断への応用	祖父江 慶太郎	放射線医学	780,000	補委	日本学術振興会
放射線診断学の画像とレポートを用いた深層学習の応用	西尾 瑞穂	放射線医学	520,000	補委	日本学術振興会
大動脈瘤のMRエラストグラフィ: 瘤の「硬さ」はEVAR後の再増大を予測しうるか?	岡田 卓也	放射線医学	650,000	補委	日本学術振興会
深部臓器発生の悪性腫瘍に対する新規放射線増感療法としての飽和炭酸水動注療法の開発	元津 倫幸	放射線医学	910,000	補委	日本学術振興会
簡便かつ革新的な表面修飾DDSを応用した全がん対応の放射線増感ナノ粒子の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍学	1,560,000	補委	日本学術振興会
大動脈解離の発生と進展に好中球が与える影響の検討	井上 大志	心臓血管外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
両心房の網羅的画像解析による心房細動基質の未来予測	木内 邦彦	循環器内科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
デジタルヘルス技術を活用した新たな循環器遠隔診療体制の構築	高見 充	循環器内科学	910,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

分岐鎖アミノ酸代謝に注目した糖尿病性心筋症の病態解明と治療応用	田中 秀和	循環器内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
心房細動と炎症の関連を解明するための心房筋炎症免疫細胞の単一細胞遺伝子解析	福沢 公二	循環器内科学	650,000	補委	日本学術振興会
小児嚢胞性腎疾患のゲノム診療基盤の構築と特異的治療法の開発	森貞 直哉	小児科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
AstragalusとSGLT2阻害薬併用による慢性腎臓病治療法の開発	西 慎一	腎臓・免疫内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
生体ヒト組織で受容体の新規標識法を用いた自律神経効果器応答のイメージング解析	中島 輝恵	生理学	520,000	補委	日本学術振興会
TFL によるCART細胞療法の効果増強に関する研究	皆川 健太郎	糖尿病・内分泌・総合内科学	780,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞ならびに成熟T細胞の生存制御における分子基盤の解明	齊藤 泰之	生化学・シグナル統合学	1,300,000	補委	日本学術振興会
膵β細胞量調節における糖尿病感受性遺伝子GCN2と胎生期栄養環境の相互作用の解明	神野 歩	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
糖質コルチコイドによるRNAメチル化を介したT細胞制御の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
褐色脂肪細胞における多房性脂肪滴形態がエネルギー代謝に与える影響の解明	田守 義和	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球の動態を考慮した食道癌新規術前療法の開発	押切 太郎	食道胃腸外科学	2,470,000	補委	日本学術振興会
ヒト大動脈解離におけるシングルセルRNAシーケンスによる成因解析	岡田 健次	心臓血管外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
生体イメージング法による全身麻酔薬の作用メカニズム解明	岡田 卓也	麻酔科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
糖尿病モデルマウスにおける術後認知機能障害への脳内モノアミンの関与	小幡 典彦	麻酔科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
遷延性術後痛におけるマクロファージのβ2アドレナリンシグナルと動態変化	坪井 ちづ	麻酔科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
長時間脳波データ解析とプロテオミクスによる包括的な急性脳症の病態解明	西山 将広	小児科学	1,040,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

JAK-STAT3経路に注目した熱傷誘発性骨格筋萎縮の新規治療戦略	大野 雄康	災害・救急医学	1,430,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤壁に新規発見したミオグロビンの壁肥厚・菲薄に関わる分子生物学的役割の解明	木村 英仁	脳神経外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
カルベノキソロン作用を通して行う脳虚血の包括的メカニズムの解明と治療法の探究	甲田 将章	脳神経外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
頭蓋底外科手術に適した手術機器開発と手術機器統合運用による手術成績改善と人材教育	魚住 洋一	脳神経外科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ機能を標的とした髄芽腫の新規治療法の開発	西原 賢在	脳神経外科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
粘液線維肉腫に対するホウ素中性子捕捉療法(BNCT)を用いた新たな治療方法の開発	藤本 卓也	整形外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
人工知能技術による野球肘検診支援システムの確立	乾 淳幸	リハビリテーション部	520,000	補委	日本学術振興会
自家組織を犠牲にしない新規骨再生療法の開発	新倉 隆宏	整形外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
脂質メディエーターに着目した好酸球中耳炎の感音難聴メカニズム解明と治療法探索	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
内耳障害に対するステロイド治療のエビデンス構築のための研究	柿木 章伸	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
脈絡膜炎と免疫におけるYAP/TAZの役割の解明	松宮 亘	眼科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリアの正常化と癌関連線維芽細胞の再教育を目指した新規口腔癌治療法の開発	長谷川 巧実	口腔外科学	650,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ-線維芽細胞の協調作用に着目した口腔癌の新規予防・診断標的の探索	重岡 学	病理学	1,560,000	補委	日本学術振興会
地域基盤型医学教育の中期的効果に及ぼすプログラムの検討	見坂 恒明	地域医療支援学部	1,040,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの骨格筋に対する経皮的炭酸ガス投与法の効果について	原 仁美	リハビリテーション部	1,690,000	補委	日本学術振興会
消化管グルコース排泄の生理・病理的意義に関する包括的解析	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学	8,580,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

マクロファージによるがん細胞の食食を強力に誘導する革新的抗腫瘍薬の開発	的崎 尚	生体シグナル制御学部門	3,250,000	補委	日本学術振興会
腸内細菌制御により運動と同等の効果を褐色脂肪組織に与える研究	平田 健一	循環器内科学	3,250,000	補委	日本学術振興会
マウスピースが不随意運動を改善する脳内メカニズムの探索	橘 吉寿	生理学	2,470,000	補委	日本学術振興会
PET-MRIを利用した心臓サルコイドシスの活動性定量評価	渡邊 慶明	放射線医学	260,000	補委	日本学術振興会
MRIを用いた深層学習による胸部領域のPET吸収補正法の開発	曾 菲比	放射線医学	780,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるアミノ酸とアミノ酸トランスポーターの役割の検討	具 潤亜	消化器内科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
膵臓正常組織に蓄積した遺伝子変異解析による膵癌発症のメカニズムの解明	池川 卓哉	消化器内科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
ICU入室患者の上下肢神経筋電気刺激療法:筋力、代謝、長期予後に与える影響	中西 信人	災害・救急医学	1,040,000	補委	日本学術振興会
頭頸部食道重複癌における共通遺伝子変異の網羅的解析	四宮 弘隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	65,000	補委	日本学術振興会
口腔粘膜における光受容機序を探る～光受容タンパク質の作用～	楠元 順哉	口腔外科学	130,000	補委	日本学術振興会
口腔癌における金属ナノ粒子と分子標的薬併用治療の有効性に関する研究	笥 康正	口腔外科学	910,000	補委	日本学術振興会
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死におけるバスツール処理を用いた新規骨再建法の開発	有本 智美	口腔外科学	130,000	補委	日本学術振興会
がん悪液質に着目した口腔がん新規治療法の検討	武田 大介	口腔外科学	650,000	補委	日本学術振興会
プロバイオティクス投与による下気道細菌叢への影響に関する研究	富岡 雄一郎	小児外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
Ror1-Rifシグナルによる血管擬態メカニズムの解明	紙崎 孝基	細胞生理学	1,560,000	補委	日本学術振興会
肝癌増殖に関わるアミノ酸同定とアミノ酸トランスポーターを介した肝癌抑制効果の検討	林 宏樹	消化器内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

疾患モデル-臨床検体-データベースを用いたGAL3BPアルツハイマー病治療法開発	関 恒慶	脳神経内科学	1,950,000	補委	日本学術振興会
高空間・高時間分解能ダイナミックMRIによる新しい膀胱癌深達度診断法の開発	上野 嘉子	放射線医学	130,000	補委	日本学術振興会
新生児における光線療法によるDNA損傷機序の解明および新規新生児黄疸治療法の開発	阿部 真也	小児科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
レジスタントスターチによる腸内環境の改善と脂肪肝抑制効果の検討	畑澤 友里	消化器内科学	1,560,000	補委	日本学術振興会
CD47-SIRP α 結合阻害特殊環状ペプチドによる革新的免疫療法の開発	羽間 大祐	呼吸器内科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
頭部血管肉腫患者の血漿におけるメタボロミクス解析と腫瘍増殖機序の解明	神保 晴紀	皮膚科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
膵頭十二指腸切除後の脂質吸収と脂質代謝異常の解明	南野 佳英	肝胆膵外科学	650,000	補委	日本学術振興会
術後の低活動型せん妄に対するカフェインの治療薬としての有効性の検討	藤本 大地	麻酔科学	910,000	補委	日本学術振興会
悪性神経膠腫に対するPARGを標的とした新規治療法の開発と効果予測因子の探索	長嶋 宏明	脳神経外科学	650,000	補委	日本学術振興会
mTOR阻害薬テムシロリムスによる椎間板変性に対する治療アプローチ	垣内 裕司	整形外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
先天性トキソプラズマ感染症におけるペア型レセプターを介した免疫逃避機構の解明	内田 明子	産科婦人科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
血小板増加症を伴う子宮頸癌におけるPDGF β の役割と新たな予後予測マーカーの確立	村田 友香	産科婦人科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いたLeber遺伝性視神経症の病態研究	上田 香織	眼科学	780,000	補委	日本学術振興会
生体に害の少ない口腔癌に有効な新規抗癌剤候補分子の探索	村木 友美	口腔外科学分	1,170,000	補委	日本学術振興会
プロバイオティクスによる非結核性抗酸菌症の治療	桂田 雅大	呼吸器内科学	2,470,000	補委	日本学術振興会
AI機械学習でつくる頭部外傷の個別化医療のための新しい重症度指標	松尾 和哉	脳神経外科学	780,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

光応答性ガス発生ポリマーを用いた3次元細胞組織の形状制御技術の構築	上野 秀貴	未来医工学研究開発センター	1,170,000	補委	日本学術振興会
海馬神経細胞ーアストロサイトによる4種類の三者間シナプスの形成機構	塩谷 元	病態シグナル学部門	2,340,000	補委	日本学術振興会
膜型分子CD47によるマクロファージの細胞貪食制御とその分子機序の解明	高井 智子	生化学・シグナル統合学	2,080,000	補委	日本学術振興会
small RNAを標的とした緑膿菌薬剤耐性機序の解明とその検査・制御方法の開発	大沼 健一郎	医療技術部臨床検査部門	1,300,000	補委	日本学術振興会
C型肝炎ウイルスが関与する新規分解機構の解明	松井 千絵子	感染制御学	1,300,000	補委	日本学術振興会
CD47-SIRP α 系による樹状細胞の生存制御の分子基盤	小森 里美	生化学・シグナル統合学	2,210,000	補委	日本学術振興会
Dormant cellを用いたEwing肉腫新規治療の開発	竹森 俊幸	整形外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
発生部位による遺伝子変異の違いに着目した胆道癌発癌メカニズムの解明	西川 義浩	消化器内科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
アデノシン2a受容体を標的とした新規直腸癌術前治療法の開発	澤田 隆一郎	食道胃腸外科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
神経細胞とグリア細胞からなる微小環境の再現によるADHDの病態解明	江口 典臣	生理学	1,170,000	補委	日本学術振興会
局所効果が全身へ波及する無機ナノ粒子併用免疫放射線治療戦略	窪田 光	放射線腫瘍学	1,690,000	補委	日本学術振興会
小児摂食障害における脳波周波数解析に着目した認知機能予後予測と包括的病態解明	富岡 和美	小児科学	1,170,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患の線維性狭窄を標的とした新規治療開発のための基盤構築	渡邊 大輔	消化器内科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎の新規自己抗体による病態解明	桑田 威	消化器内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
腸脳相関における糖代謝制御機構の解明	木下 雅登	消化器内科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
レジスタントスターチによるDysbiosis改善が肝不全の易感染状態に与える影響	安富 栄一郎	消化器内科学	1,560,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

血栓後症候群における予測因子の探索と静脈弁機能変化の検証	岡野 光真	循環器内科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
小児心臓検診用マルチモーダル人工知能(AI)モデルの開発研究	西森 誠	分子疫学	1,690,000	補委	日本学術振興会
マクロファージをターゲットとした新しい心血管イベント予防法開発	江本 拓央	循環器内科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
混合型小細胞癌の発生機序解明と治療方針の再考	神保 直江	病理診断学	260,000	補委	日本学術振興会
COL4A5遺伝子におけるNon-Glyミセス変異の病態発症機序解明	青砥 悠哉	小児科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
日本人Gitelman症候群の全容解明に向けた研究	近藤 淳	小児科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
低分子代謝のエピゲノム制御に着目したメラノーマの病態解明と新規治療標的の探索	福本 毅	皮膚科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
内因性光線過敏症における病態解明	織田 好子	皮膚科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
Deciphering regulatory mechanism of trained immunity in aged HSCs and clonal hematopoiesis of indeterminate potential (CHIP)	Afroj Tania	生体シグナル制御学部門	1,430,000	補委	日本学術振興会
高精度造血幹細胞分離技術に基づくストレス造血制御機構の解明	酒巻 太郎	小児科学	2,470,000	補委	日本学術振興会
ストレスによる筋萎縮の制御機構の解析	平田 悠	糖尿病・内分泌・総合内科学	2,340,000	補委	日本学術振興会
イメグリミンの消化管作用解明の研究	山田 倫子	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
茶カテキンコーティング金ナノ粒子を用いた新規放射線治療増感剤の開発	馬場 基	乳腺内分泌外科学	1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍反応性レジデントメモリーT細胞の誘導とその抗腫瘍効果	渡部 晃大	食道胃腸外科学	2,990,000	補委	日本学術振興会
ロボット支援Kinematic alignment TKAの生体力学的検討	中野 直樹	リハビリテーション部	910,000	補委	日本学術振興会
前十字靭帯損傷における徒手検査定量化システムの検証と確立:未固定凍結屍体での研究	長井 寛斗	整形外科学	910,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

メカレセプターTRPV4による椎間板変性に対する治療アプローチ	武岡 由樹	整形外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
膀胱癌に対するCD47-SIRPシグナル系を利用した新たな免疫がん治療法の開発	坂本 茉莉子	腎泌尿器科学	1,820,000	補委	日本学術振興会
癒着胎盤の発生に関わるmiRNAの同定および癒着胎盤分娩前評価法の確立	今福 仁美	産科婦人科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリア病モデル内耳細胞を用いたミトコンドリア難聴の病態解明	上原 奈津美	耳鼻咽喉科頭頸部外科学	1,040,000	補委	日本学術振興会
神経周膜のバリア機能修復は口腔外科術後神経合併症や神経障害性疼痛の治療に有効か？	松村 恵実	口腔外科学	1,690,000	補委	日本学術振興会
ナノ粒子による血管新生の調整は癌免疫療法を賦活化するか？	寺岡 駿	口腔外科学	910,000	補委	日本学術振興会
ディーブラーニングによるMRIの3次元情報をを用いた前立腺がん再発リスク分析	神保 岳大	腎泌尿器科学	780,000	補委	日本学術振興会
Assessment of a potential application of endogenous stem cells to treat congenital disorders	Sunardi Mukhammad	神経分化・再生	1,430,000	補委	日本学術振興会
NKT細胞活性化ワクチンによる腫瘍内レジデントメモリーT細胞の誘導と抗腫瘍効果	阿部 智喜	食道胃腸外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
前部側頭葉の言語可塑性に関わる神経ネットワーク基盤の解明	的場 健人	脳神経内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
患者由来オルガノイドを用いた早期膀胱癌のバイオマーカー探索	辻前 正弘	消化器内科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
サイトカインストームを制御する瘰癧形成抑制を目指した新規治療法の開発	伊賀 利香	口腔外科学	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒト剖検試料を用いたNO関連タンパク質解析による虚血性心疾患死後診断の研究	山崎 元太郎	法医学	1,430,000	補委	日本学術振興会
80歳以上高齢者に対するSARS-CoV-2ワクチン接種の有効性および有効期間解明	石丸 華子	臨床ウイルス学	1,430,000	補委	日本学術振興会
がん患者の集学的治療過程における新たな骨格筋評価システムの開発	舘林 大介	医療技術部リハビリ・歯科部門	130,000	補委	日本学術振興会
無機ナノ粒子表面へ抗体結合技術を用いた新規放射線増感療法の国際共同開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学	1,690,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

小児ネフローゼ症候群の国際GWASメタ解析と抗ネフリン抗体に関する国際共同研究	飯島 一誠	小児科学	5,720,000	補委	日本学術振興会
先駆的解析法に基づく先天性下垂体機能低下症の病因解明と新規疾患概念の創出	坂東 弘教	糖尿病・内分泌・総合内科学	4,810,000	補委	日本学術振興会
後シナプスタンパク質の発達依存的かつ網羅的データによる臨界期の理解	内匠 透	生理学	6,110,000	補委	日本学術振興会
ホログラフィック顕微鏡による脳の揺らぎ操作	中井 信裕	生理学	4,550,000	補委	日本学術振興会
レジリエンスの臨界期を担う神経・炎症・血管相互作用の解明	古屋敷 智之	薬理学	6,110,000	補委	日本学術振興会
免疫性神経疾患の神経変性過程を再現する脳内炎症環境モデルの構築	千原 典夫	脳神経内科学	4,940,000	補委	日本学術振興会
リツキシマブによる小児ネフローゼ症候群の長期寛解誘導メカニズムの解明	飯島 一誠	小児科学	7,020,000	補委	日本学術振興会
動脈硬化性疾患シングルセルアトラスの作成とゲノム統合解析による発症メカニズム解明	平田 健一	循環器内科学	11,960,000	補委	日本学術振興会
ヒトIPS細胞由来Leydig細胞の移植法の確立と非臨床POCの取得	藤澤 正人	腎泌尿器科学	7,540,000	補委	日本学術振興会
B細胞を軸とした免疫チェックポイント阻害の有害事象の包括的機序解明と効果の推定	南 博信	腫瘍・血液内科学	3,510,000	補委	日本学術振興会
汗孔角化症の病態解明を通じた細胞競合/クローン拡大機構の理解と新規治療法開発	久保 亮治	皮膚科学	6,500,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞移植患者における移植後半年間の身体活動量の経過および健康人との比較	奥村 真帆	医療技術部	480,000	補委	日本学術振興会
膝周囲骨切り術における、術前・術後の筋力の推移について	後藤 理生	医療技術部	350,000	補委	日本学術振興会
ロイシンセンシングによる腫瘍発生機序の解明と予防法の開発	星 奈美子	消化器内科学	3,640,000	補委	日本学術振興会
ヒト脳病態における興奮・抑制(E/I)バランスの生理指標の研究開発	松本 理器	脳神経内科学	2,080,000	補委	日本学術振興会
胃癌バイスルーブットCAR-T細胞作製プラットフォーム構築	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	3,250,000	補委	日本学術振興会

小計 17件

ゲノム編集を標的とした革新的抗ウイルス・抗がん戦略の構築	有井 潤	臨床ウイルス学	3,250,000	補 委	日本学術振興会
大脳皮質マクロイメージング法を用いたうつ病の病態と治療機構に関する検討	新谷 勇介	生理学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
慢性ストレスによる自然免疫記憶を介した骨髄-脳連関メカニズムの解明	山口 勇太	薬理学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
Rif-Wnt5a-Ror1シグナルによる血管擬態形成メカニズムの解明	内藤 元彦	細胞生理学	1,170,000	補 委	日本学術振興会
圧センシングが骨格筋のリモデリングおよび全身の代謝に及ぼす影響の解析	倉本 尚樹	糖尿病・内分泌・総合内科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
応力発光による骨折癒合過程のモニタリング	隈部 洋平	整形外科学	1,170,000	補 委	日本学術振興会
大腿骨頭壊死症に対するADSC及びSVFの局所投与と血管内投与の治療効果の比較検討	壺坂 正徳	整形外科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
ウサギ大腿骨寛骨臼インピンジメントモデルを用いた変形性股関節症のメカニズム解明	亀長 智幸	整形外科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
造血器悪性腫瘍におけるアミノアシルtRNA合成酵素の生物学的意義の解明	倉田 啓史	腫瘍・血液内科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
膵癌の予後改善を目指したTLS誘導機構の解明	田中 雄志	消化器内科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
肥満を伴う大腸癌宿主内CD4+T 細胞低下の病態解明と治療法の開発	常城 宇生	食道胃腸外科学	1,430,000	補 委	日本学術振興会
社会性神経回路と自閉スペクトラム症におけるその障害	内匠 透	生理学	8,450,000	補 委	日本学術振興会
低侵襲電気刺激による脳機能ネットワークマッピング法の開発と機能可塑性予測への応用	松本 理器	脳神経内科学	5,200,000	補 委	日本学術振興会
医用自然言語処理における大規模言語モデルの応用	西尾 瑞穂	未来医工学研究開発センター	8,190,000	補 委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌の細胞接着因子に着目したバイオマーカー探索と抗体治療開発	重村 克巳	腎泌尿器科学	3,250,000	補 委	日本学術振興会
難治腫瘍に対するMPN-mRNAナノ粒子を用いた革新的な抗原発現療法国際共同研究	赤坂 浩亮	放射線腫瘍学	15,600,000	補 委	日本学術振興会

小計 17件

小計 5件

計 462件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirofumi Abe, Takashi Toyonaga, Douglas Motomura et al.	消化器内科	A novel strategy facilitating endoscopic submucosal dissection of proximal colonic lesions: the rubber band and sheath method.	Endoscopy.202312;55(S01):E672-E673	Original Article
2	Hiroyuki Yoshida, Masahiro Shiohara, Takeshi Kuwada et al.	消化器内科	Anti-integrin $\alpha v \beta 6$ autoantibodies in patients with primary sclerosing cholangitis.	Journal of gastroenterology.202308;58(8):778-789	Original Article
3	Kohei Yamakawa, Noriko Inomata, Atsuhiko Masuda et al.	消化器内科	Benefits of pancreatic parenchymal endoscopic ultrasonography in predicting microscopic precancerous lesions of pancreatic cancer.	Scientific reports.202307;13(1):12052-12052	Original Article
4	Satoshi Shichijo, Norihiro Ueda, Atsushi Sawada et al.	消化器内科	Endoscopic full-thickness resection for gastric submucosal tumors: Japanese multicenter prospective study.	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society.202311	Original Article
5	Tetsuya Yoshizaki, Yoshiobu Yamamoto, Tomoya Sako et al.	消化器内科	Outcomes of endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer with segmental absence of intestinal musculature.	Gastrointestinal endoscopy.202311	Original Article
6	Tomotaka Saito, Shunsuke Omoto, Mamoru Takenaka et al.	消化器内科	Risk factors for adverse outcomes at various phases of endoscopic ultrasound-guided treatment of pancreatic fluid collections: data from a multi-institutional consortium.	Digestive endoscopy : official journal of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society.202309	Original Article
7	Tatsuya Nakai, Tetsuya Yoshizaki, Shinwa Tanaka et al.	消化器内科	Safety and efficacy of endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer with esophageal varices.	Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society.202307;20(3):515-523	Original Article
8	Tatsuya Sato, Tomotaka Saito, Mamoru Takenaka et al.	消化器内科	WONDER-01: immediate necrosectomy vs. drainage-oriented step-up approach after endoscopic ultrasound-guided drainage of walled-off necrosis—study protocol for a multicentre randomised controlled trial.	Trials.202305;24(1):352-352	Original Article

計 8 件

9	Masaaki Yamamoto, Hironori Bando	糖尿病・内分泌内科	A new insight into GH regulation and its disturbance from nutrition and autoimmune perspectives.	Endocrine journal.202308	Review
10	山本雅昭, 福岡秀規	糖尿病・内分泌内科	Adult growth hormone deficiency.	月刊糖尿病・内分泌代謝科.2023;57(3)	Review
11	Shin Urai, Genzo Iguchi, Keitaro Kanie et al.	糖尿病・内分泌内科	Clinical features of anti-PIT-1 hypophysitis: A new aspect of paraneoplastic autoimmune condition.	European journal of endocrinology.202312	Original Article
12	Stephan Petersenn, Maria Fleseriu, Felipe F. Casanueva et al.	糖尿病・内分泌内科	Diagnosis and management of prolactin-secreting pituitary adenomas: a Pituitary Society international Consensus Statement	Nature Reviews Endocrinology. Springer Science and Business Media LLC.202309;19(12):722-740	Review
13	Maki Kanzawa, Hiroki Shichi, Keitaro Kanie et al.	糖尿病・内分泌内科	Effects of the cortisol milieu on tumor-infiltrating immune cells (TIICs) in corticotroph tumors.	Endocrinology.202402	Original Article
14	Hironori Bando, Masaaki Yamamoto, Shin Urai et al.	糖尿病・内分泌内科	Fluctuations in plasma adrenocorticotrophic hormone concentration may predict the onset of immune checkpoint inhibitor-related hypophysitis	Journal for Immunotherapy of Cancer.202402	Original Article
15	Kenichi Uto, Hironori Bando, Hidenori Fukuoka et al.	糖尿病・内分泌内科	Instability of harmonized thyroid-stimulating hormone immunoassays in clinical practice.	Clinical endocrinology.202306	Original Article
16	Shin Urai, Masaaki Yamamoto, Naoki Yamamoto et al.	糖尿病・内分泌内科	Newer parameters of the octreotide test in patients with acromegaly.	Pituitary.202311	Original Article
17	Shin Urai, Miki Watanabe, Hironori Bando et al.	糖尿病・内分泌内科	Paraneoplastic isolated adrenocorticotrophic hormone deficiency revealed after immune checkpoint inhibitors therapy: new insights into anti-corticotroph antibody.	Frontiers in immunology.2023;14:1284301-1284301	Original Article

18	Masaaki Yoshikawa, Kenji Sekiguchi, Hirotomo Suehiro et al.	脳神経内科	Nerve enlargement differs among chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy subtypes and multifocal motor neuropathy	Clinical Neurophysiology Practice.Elsevier BV.2023;8:228-234	Original Article
19	Kohei Morimoto, Kenji Sekiguchi, Riki Matsumoto	脳神経内科	Sensory nerve action potential in patients with functional neurological disorders with sensory manifestations	Frontiers in Neurology.Frontiers Media SA.202310;14	Original Article
20	Shusuke Koto, Norio Chihara, Atsushi Hara et al.	脳神経内科	Disorders related to antineuronal antibodies: Autoimmune epilepsy	Clinical and Experimental Neuroimmunology.202402	Review
21	Ritsu Akatani, norio chihara, Shusuke Koto et al.	脳神経内科	Efficacy and safety of mycophenolate mofetil for steroid reduction in neuromyelitis optica spectrum disorder: a prospective cohort study	Immunological Medicine.202401	Original Article
22	Chihara, N., Tsuchi et al.	脳神経内科	Neuroinflammation and neuroimmunology in Alzheimer's disease: The role of T-lymphocytes in Alzheimer's disease	Clinical and Experimental Neuroimmunology.2023;14(2)	Review
23	Naomi Kiyota, Makoto Tahara, Akihiro Homma	腫瘍・血液内科	Current status and future perspective of postoperative treatment for locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck	Japanese Journal of Clinical Oncology.202403	Review
24	Hiroya Ichikawa, Kimikazu Yakushijin, Yoshiharu Miyata et al.	腫瘍・血液内科	Early diagnosis of sinusoidal obstruction syndrome after hematopoietic stem cell transplantation, with modified diagnostic criteria including refractory thrombocytopenia	eJHaem.Wiley.202306	Original Article
25	Akihiro Yamada, Hiroaki Shinomiya, Naotsumi Uehara et al.	腫瘍・血液内科	Oncological outcomes of concurrent chemoradiotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for locally advanced squamous cell carcinoma of the external auditory canal: A single-center study.	Head & neck.202307	Original Article
26	Ryosuke Kuroda, Takahiro Niikura, Tomoyuki Matsumoto et al.	腫瘍・血液内科	Phase III clinical trial of autologous CD34+ cell transplantation to accelerate fracture nonunion repair.	BMC medicine.202310;21(1):386-386	Original Article

計 5 件

27	Yasuyuki Saito,Rie Iida-Norita,Tania Afroj et al.	腫瘍・血液内科	Preclinical evaluation of the efficacy of an antibody to human SIRP α for cancer immunotherapy in humanized mouse models	Frontiers in Immunology.Frontiers Media SA.202312;14	Original Article
28	Yohei Funakoshi,Kimikazu Yakushijin,Go Ohji et al.	腫瘍・血液内科	Response to mRNA SARS-CoV-2 vaccination evaluated by B-cell receptor repertoire after tixagevimab/cilgavimab administration.	British journal of haematology.202306;202(3):504-516	Original Article
29	Yumi Kitahiro,Kazuhiro Yamamoto, Kimikazu Yakushijin et al.	腫瘍・血液内科	The Efficacy of Bepotastine Besilate Compared With Hydroxyzine Pamoate for Preventing Infusion Reactions to the First Dose of Rituximab in Patients With Non-Hodgkin Lymphoma: Protocol for a Phase II,Double-Blind,Multicenter Randomized Trial.	JMIR research protocols.202402;13:e54882-	Original Article
30	Junichiro Inoue, Takashi Saito, Daisuke Makiura et al.	腫瘍・血液内科	Factors Influencing Life Space Mobility in Cancer Survivors Following Hematopoietic Stem Cell Transplantation – Physical Function,Depression,Fatigue,Neighborhood Walkability,and Employment Status	Hematol Oncol Stem Cell Ther.2024.03	Original Article
31	Shohei Komatsu,Tianyuan Wang,Kazuki Terashima et al.	放射線腫瘍科	Innovative Combination Treatment to Expand the Indications of Particle Therapy: Spacer Placement Surgery Using Bio-Absorbable Polyglycolic Acid Spacer.	Journal of the American College of Surgeons.202309;238(1):119-128	Original Article
32	Ryota Shindo,Takaki Tanifuji,Satoshi Okazaki et al.	精神科神経科	Accelerated epigenetic aging and decreased natural killer cells based on DNA methylation in patients with untreated major depressive disorder.	npj aging.202309;9(1):19-19	Original Article
33	Masashi Hasegawa,Takaki Tanifuji,Satoshi Okazaki et al.	精神科神経科	Association of two variable number of tandem repeats in the monoamine oxidase A gene promoter with suicide completion: The present study and meta-analysis.	Neuropsychopharmacology reports.202305;43(3):338-345	Original Article
34	Toshiyuki Shirai,Satoshi Okazaki,Takaki Tanifuji et al.	精神科神経科	Association study of a single nucleotide polymorphism in the hypoxia response element of the macrophage migration inhibitory factor gene promoter with suicide completers in the Japanese population.	Neuropsychopharmacology reports.202403;44(1):262-266	Original Article
35	Takaki Tanifuji,Satoshi Okazaki,Ikuo Otsuka et al.	精神科神経科	Epigenetic clock analysis reveals increased plasma cystatin C levels based on DNA methylation in major depressive disorder.	Psychiatry research.202304;322(0):115103-115103	Original Article
36	Toshiyuki Shirai,Satoshi Okazaki,Takaki Tanifuji et al.	精神科神経科	Epigenome-wide association study on methamphetamine dependence.	Addiction biology.202403;29(3):e13383-e13383	Original Article

計 8 件

計 1 件

37	Toshinori Chiba,Kenta rou Ide,Misa Murakami et al.	精神科神経科	Event-related PTSD symptoms as a high-risk factor for suicide: longitudinal observational study	Nature Mental Health.Springer Science and Business Media LLC.202312;1(12):1013-1022	Original Article
38	Ikuo Otsuka,Han ga Galfalvy,Jia Guo et al.	精神科神経科	Mapping the genetic architecture of suicide attempt and suicide death using polygenic risk scores for clinically-related psychiatric disorders and traits.	Psychological medicine.202304;53(6):2689-2697	Original Article
39	Sen Li,Ikuo Otsuka,Tak aki Tanifuji et al.	精神科神経科	Ribosomal DNA gene copies are increased in blood and brain of Japanese schizophrenia patients.	PloS one.2023;18(1):e0280694-e0280694	Original Article
40	TAKASHI NAKANISHI, TAKERU MATSUDA, KIMIHIRO YAMASHITA et al.	食道胃腸外科	Alb-dNLR Score as a Novel Prognostic Marker for Patients With Locally Advanced Rectal Cancer Undergoing Neoadjuvant Chemoradiotherapy	Anticancer Research.Anticancer Research USA Inc..202312;44(1):229-237	Original Article
41	Tomoki Abe,Kimihir o Yamashita,T oru Nagasaka et al.	食道胃腸外科	Deep Learning-based Image Cytometry Using a Bit-pattern Kernel-filtering Algorithm to Avoid Multi-counted Cell Determination.	Anticancer research.202308;43(8):3755-3761	Original Article
42	Takashi Kato,Taro Oshikiri,Yas ufumi Koterazawa et al.	食道胃腸外科	Effectiveness of long-term tube feeding intervention in preventing skeletal muscle loss after minimally invasive esophagectomy	Surgery Today.Springer Science and Business Media LLC.202312	Original Article
43	Manabu Horikawa,Ta ro Oshikiri,Takashi Kato et al.	食道胃腸外科	Efficacy and Postoperative Outcomes of Laparoscopic Retrosternal Route Creation for the Gastric Conduit: Propensity Score-Matched Comparison to Posterior Mediastinal Reconstruction.	Annals of surgical oncology.202307;30(7):4044-4053	Original Article
44	Yoshihiro Kakeji	食道胃腸外科	Evolution of treatment strategies for gastric cancer	Annals of Gastroenterological Surgery.Wiley.202308;7(5):694-695	Original Article
45	Yuki Azumi,Yu-ichiro Koma,Shuichi Tsukamoto et al.	食道胃腸外科	IFI16 Induced by Direct Interaction between Esophageal Squamous Cell Carcinomas and Macrophages Promotes Tumor Progression via Secretion of IL-1 α	Cells.MDPI AG.202311;12(22):2603-2603	Original Article
46	Yasufumi Koterazawa, Taro Oshikiri,Hiro nobu Goto et al.	食道胃腸外科	Impact of Tumor Size on Survival Outcome in Esophageal Squamous Cell Carcinoma After Esophagectomy Following Neoadjuvant Chemotherapy	Annals of Surgical Oncology.Springer Science and Business Media LLC.202312;31(4):2482-2489	Original Article

計 8 件

47	Taro Oshikiri,Hironobu Goto,Takashi Kato et al.	食道胃腸外科	Improvement Effect of Upper Mediastinal Lymphadenectomy during Minimally Invasive Esophagectomy on the Prognosis in Squamous Cell Carcinoma: Efficacy Index and Propensity Score-Matching Analyses.	Journal of the American College of Surgeons.202306	Original Article
48	Taro Oshikiri,Hodaka Numasaki,Junya Oguma et al.	食道胃腸外科	Is Thoracic Duct Resection Necessary for Esophageal Squamous Cell Carcinoma Patients Treated with Neoadjuvant Chemoradiotherapy? A Propensity-Matched Analysis Based on the Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan	Annals of surgical oncology.202305;30(5):2691-2698	Original Article
49	Takeru Matsuda,Ryuichiro Sawada,Hiroshi Hasegawa et al.	食道胃腸外科	Learning Curve for Transanal Total Mesorectal Excision for Low Rectal Malignancy.	Journal of the American College of Surgeons.202305;236(5):1054-1063	Original Article
50	Naoki Urakawa,Shingo Kanaji,Takashi Kato et al.	食道胃腸外科	Neutrophil-lymphocyte Ratio and Histological Response Correlate With Prognosis of Gastric Cancer Undergoing Neoadjuvant Chemotherapy.	In vivo (Athens,Greece).2023;37(1):378-384	Original Article
51	Hiroshi Hasegawa,Takeru Matsuda,Kimihito Yamashita et al.	食道胃腸外科	Obesity and narrow pelvis prolong the operative time in conventional laparoscopic rectal cancer surgery,but not in a two-team transanal total mesorectal excision approach.	Asian journal of endoscopic surgery.202304;16(2):189-196	Original Article
52	Tomoki Abe,Takeru Matsuda,Ryuichiro Sawada et al.	食道胃腸外科	Patients younger than 40 years with colorectal cancer have a similar prognosis to older patients.	International journal of colorectal disease.202307;38(1):191-191	Original Article
53	Natsuko Yamauchi,Makoto Otsuka,Tomohiro Ishikawa et al.	食道胃腸外科	Role of $Wnt5b-Ror1$ signaling in the proliferation of pancreatic ductal adenocarcinoma cells	Genes to Cells.Wiley.202403;0(0):0-0	Original Article
54	TOMOSUKE MUKOYAMA,SHINGO KANAJI,RYUICHIRO SAWADA et al.	食道胃腸外科	Safety and Efficacy of Neoadjuvant Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer in Elderly Patients	Anticancer Research.Anticancer Research USA Inc..202311;43(12):5649-5656	Original Article
55	Shingo Kanaji,Naoki Urakawa,Tomosuke Mukoyama et al.	食道胃腸外科	Safety of Laparoscopic Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer With Greater than Serosal Invasion Depth.	Anticancer research.202307;43(7):3145-3152	Original Article
56	YUKI AZUMI,SHINGO KANAJI,RYUICHIRO SAWADA et al.	食道胃腸外科	Significance of Preoperative Tooth Loss in Patients Who Underwent Gastrectomy for Gastric Cancer	Cancer Diagnosis & Prognosis.Anticancer Research USA Inc..202401;4(1):51-56	Original Article

57	Hironobu Goto,Taro Oshikiri,Takashi Kato et al.	食道胃腸外科	The Influence of Preoperative Smoking Status on Postoperative Complications and Long-Term Outcome Following Thoracoscopic Esophagectomy in Prone Position for Esophageal Carcinoma.	Annals of surgical oncology.202304;30(4):2202–2211	Original Article
58	Atsushi Shimada,Takeru Matsuda,Ryuchiro Sawada et al.	食道胃腸外科	The modified Glasgow prognostic score is a reliable predictor of oncological outcomes in patients with rectal cancer undergoing neoadjuvant chemoradiotherapy	Scientific Reports.Springer Science and Business Media LLC.202310;13(1):–	Original Article
59	Naoki Moriyama,Masafumi Saito,Yuko Ono et al.	食道胃腸外科	Increased Interleukin-17-Producing γ δ T Cells in the Brain Exacerbate the Pathogenesis of Sepsis-Associated Encephalopathy and Sepsis-Induced Anxiety in Mice.	Journal of clinical medicine.202306;12(13):–	Original Article
60	Naoki Urakawa,Shingo Kanaji,Takashi Kato et al.	食道胃腸外科	Neutrophil-lymphocyte Ratio and Histological Response Correlate With Prognosis of Gastric Cancer Undergoing Neoadjuvant Chemotherapy.	In vivo (Athens,Greece).2023;37(1):378–384	Original Article
61	Hiroshi Hasegawa,Takeru Matsuda,Kimihito Yamashita et al.	食道胃腸外科	Obesity and narrow pelvis prolong the operative time in conventional laparoscopic rectal cancer surgery,but not in a two-team transanal total mesorectal excision approach.	Asian journal of endoscopic surgery.202304;16(2):189–196	Original Article
62	Yasufumi Koterazawa,Manabu Ohashi,Masaru Hayami et al.	食道胃腸外科	Oncological impact of unexpected horizontal tumor spread in gastric cancer that requires total gastrectomy	Gastric Cancer.Springer Science and Business Media LLC.202305;26(5):823–832	Original Article
63	TOMOSUKE MUKOYAMA,SHINGO KANAJI,RYUICHIRO SAWADA et al.	食道胃腸外科	Safety and Efficacy of Neoadjuvant Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer in Elderly Patients	Anticancer Research.Anticancer Research USA Inc..202311;43(12):5649–5656	Original Article
64	Shingo Kanaji,Naoki Urakawa,Tomosuke Mukoyama et al.	食道胃腸外科	Safety of Laparoscopic Gastrectomy for Advanced Gastric Cancer With Greater than Serosal Invasion Depth.	Anticancer research.202307;43(7):3145–3152	Original Article
65	YUKI AZUMI,SHINGO KANAJI,RYUICHIRO SAWADA et al.	食道胃腸外科	Significance of Preoperative Tooth Loss in Patients Who Underwent Gastrectomy for Gastric Cancer	Cancer Diagnosis & Prognosis.Anticancer Research USA Inc..202401;4(1):51–56	Original Article
66	Hironobu Goto,Taro Oshikiri,Takashi Kato et al.	食道胃腸外科	The Influence of Preoperative Smoking Status on Postoperative Complications and Long-Term Outcome Following Thoracoscopic Esophagectomy in Prone Position for Esophageal Carcinoma.	Annals of surgical oncology.202304;30(4):2202–2211	Original Article

67	Atsushi Shimada,Takeru Matsuda,Ryuchiro Sawada et al.	食道胃腸外科	The modified Glasgow prognostic score is a reliable predictor of oncological outcomes in patients with rectal cancer undergoing neoadjuvant chemoradiotherapy	Scientific Reports.Springer Science and Business Media LLC.202310;13(1)	Original Article
68	Masanori Gonda,Takashi Kobayashi,Keiji Notohara et al.	肝胆膵外科	A case of pancreatic ductal adenocarcinoma concomitant with IgG4-related disease in the pancreas and the stomach.	Clinical journal of gastroenterology.202305;16(5):785-790	Original Article
69	Shigeto Ashina,Atsuhiko Masuda,Koh-ichi Yamakawa et al.	肝胆膵外科	A comprehensive analysis of tumor-stromal collagen in relation to pathological,molecular,and immune characteristics and patient survival in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Journal of gastroenterology.202307;58(10):1055-1067	Original Article
70	Hidetoshi Gon,Shohei Komatsu,Masahiro Kido et al.	肝胆膵外科	Advantages of the Laparoscopic Approach for the Initial Operation in Patients who Underwent Repeat Hepatectomy.	Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract.202308;27(8):1621-1631	Original Article
71	Shinichi Matsumoto,Sadaki Asari,Yoshihide Nanno et al.	肝胆膵外科	Allogeneic Islet Transplantation and Future	Allogeneic Islet Transplantation and Future.IntechOpen.202312	Original Article
72	Jun Ishida,Hirochika Toyama,Sadaki Asari et al.	肝胆膵外科	Optimal cutoff values of drain amylase for predicting pancreatic fistula are different between open and laparoscopic distal pancreatectomy.	Surgical endoscopy.202403;38(5):2699-2708	Original Article
73	Katsuya Ami,Kazuki Terashima,Jun Ishida et al.	肝胆膵外科	Proton radiotherapy as a treatment strategy to increase survival in locally advanced pancreatic cancer in the body and tail: a retrospective study.	Radiation oncology (London,England).202308;18(1):131-131	Original Article
74	Taiichiro Miyake,Hiroaki Yanagimoto,Daisuke Tsugawa et al.	肝胆膵外科	Utility of plasma D-dimer for diagnosis of venous thromboembolism after hepatectomy.	World journal of clinical cases.202401;12(2):276-284	Original Article
75	Kosuke Nishio,Shohei Komatsu,Keitaro Sofue et al.	肝胆膵外科	A novel method using gadolinium-ethoxybenzyl diethylenetriamine pentaacetate acid-enhanced magnetic resonance imaging for predicting post-hepatectomy liver failure in hepatocellular carcinoma patients with a major portal vein tumor thrombus.	Digestive surgery.202401	Original Article
76	Nobuaki Ishihara,Shohei Komatsu,Keitaro Sofue et al.	肝胆膵外科	Association between tumor morphology and efficacy of atezolizumab plus bevacizumab for advanced hepatocellular carcinoma.	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology.202402	Original Article

77	Shigeto Masuda, Koh ei Yamakawa, Atsuhiko Masuda et al.	肝胆膵外科	Association of Sarcopenia with a Poor Prognosis and Decreased Tumor-Infiltrating CD8-Positive T Cells in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: A Retrospective Analysis.	Annals of surgical oncology.202305;30(9):5776-5787	Original Article
78	Kohei Yamakawa, Noriko Inomata, Atsuhiko Masuda et al.	肝胆膵外科	Benefits of pancreatic parenchymal endoscopic ultrasonography in predicting microscopic precancerous lesions of pancreatic cancer.	Scientific reports.202307;13(1):12052-12052	Original Article
79	Ryosuke Fujinaka, Shohhei Komatsu, Kazuki Terashima et al.	肝胆膵外科	Clinical impact of spacer placement surgery with expanded polytetrafluoroethylene sheet for particle therapy.	Radiation oncology (London, England).202310;18(1):173-173	Original Article
80	Masayuki Akita, Hiroaki Yanagimoto, Daisuke Tsugawa et al.	肝胆膵外科	Diagnostic usefulness of SpyGlass in intracholecystic papillary neoplasm with pancreaticobiliary maljunction: a case report and comparison with conventional gallbladder cancer with pancreaticobiliary maljunction.	Clinical journal of gastroenterology.202306;16(3):476-481	Case report
81	Nobuaki Yamasaki, Hirotoshi Gon, Hisoka Yamane et al.	肝胆膵外科	Efficacy and safety of laparoscopic liver resection for hepatocellular carcinoma in segment 8: a propensity score-matched two-center study.	Surgical endoscopy.202311;37(11):8438-8446	Original Article
82	Michihiko Yoshida, Hiroaki Yanagimoto, Daisuke Tsugawa et al.	肝胆膵外科	Efficacy of S-1 Adjuvant Chemotherapy for Resected Biliary Tract Cancer: A Retrospective Propensity-Matched Analysis.	The American surgeon.202406;90(6):313482412-313482412	Original Article
83	Yoshihiko Yano, Atsushi Yamamoto, Takuya Mimura et al.	肝胆膵外科	Factors associated with the response to atezolizumab/bevacizumab combination therapy for hepatocellular carcinoma.	JGH open : an open access journal of gastroenterology and hepatology.202307;7(7):476-481	Original Article
84	Yuhi Shimura, Kaori Kuramitsu, Masahiro Kido et al.	肝胆膵外科	Factors Predicting Over-Time Weight Increase After Liver Transplantation: A Retrospective Study.	Transplantation proceedings.202304;55(4):924-929	Original Article
85	Takanori Matsuura, Yoshihide Ueda, Yoshiyuki Harada et al.	肝胆膵外科	Histological diagnosis of polyploidy discriminates an aggressive subset of hepatocellular carcinomas with poor prognosis.	British journal of cancer.202310;129(8):1251-1260	Original Article
86	Satoshi Omiya, Takeshi Urade, Shohhei Komatsu et al.	肝胆膵外科	Impact of GLIM criteria-based malnutrition diagnosis on outcomes following liver resection for hepatocellular carcinoma.	HPB : the official journal of the International Hepato Pancreato Biliary Association.202308;25(12):1555-1565	Original Article

87	Shohei Abe, Atsuhir o Masuda, Tomonori Matsumoto et al.	肝胆膵外科	Impact of intratumoral microbiome on tumor immunity and prognosis in human pancreatic ductal adenocarcinoma.	Journal of gastroenterology.202403;59(3):250-262	Original Article
88	Eiko Nishioka, Keitaro Sofue, Koji Maruyama et al.	肝胆膵外科	Improved diagnosis of histological capsule in hepatocellular carcinoma by using nonenhancing capsule appearance in addition to enhancing capsule appearance in gadoteric acid-enhanced MRI.	Scientific reports.202304;13(1):6113-6113	Original Article
89	Shohei Komatsu, Ti anyuan Wang, Kazuki Terashima et al.	肝胆膵外科	Innovative Combination Treatment to Expand the Indications of Particle Therapy: Spacer Placement Surgery Using Bio-Absorbable Polyglycolic Acid Spacer.	Journal of the American College of Surgeons.202309;238(1):119-128	Original Article
90	Hirokazu Onishi, Ryo Yoshikawa, Risa Harada et al.	肝胆膵外科	Investigation of Changes in Skeletal Muscle Mass and Muscle Quality and Factors Affecting Changes in Deceased Donor Liver Transplantation.	Transplantation proceedings.202309;55(7):1649-1655	Original Article
91	Riki Asakura, Tet suo Ajiki, Shigeki Abe et al.	肝胆膵外科	LC-1000 flow cytometry system complements intraoperative peritoneal cytology for pancreatic and biliary tract cancer.	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences.202309;30(9):1119-1128	Original Article
92	Shohei Komatsu, Kazuki Terashima, Nobuaki Ishihara et al.	肝胆膵外科	Novel concept of "sequential particle radiotherapy" with atezolizumab plus bevacizumab for hepatocellular carcinoma with portal vein tumor thrombus.	Surgery today.202403	Original Article
93	Jun Ishida, Hirochika Toyama, Sadaaki Asari et al.	肝胆膵外科	Optimal cutoff values of drain amylase for predicting pancreatic fistula are different between open and laparoscopic distal pancreatectomy.	Surgical endoscopy.202403;38(5):2699-2708	Original Article
94	Yuki Okazoe, Hiroaki Yanagimoto, Daisuke Tsugawa et al.	肝胆膵外科	Prognostic Impact of Malnutrition Diagnosed by the GLIM Criteria for Resected Extrahepatic Cholangiocarcinoma.	Anticancer research.202305;43(5):2299-2308	Original Article
95	Yoshihide Nanno, Hirochika Toyama, Ipp ei Matsumoto et al.	肝胆膵外科	Reappraisal of Malignant Risk Assessment for Small (≤ 20 mm) Non-functioning Pancreatic Neuroendocrine Tumors.	Annals of surgical oncology.202306;30(6):3493-3500	Original Article
96	Hiroataka Fukuoka, Hirochika Toyama, Takuya Mizumoto et al.	肝胆膵外科	Risk Factors for Recurrence of Cholangitis After Pancreaticoduodenectomy and Comparison of Stents in Hepaticojejunostomy.	World journal of surgery.202310;47(10):2499-2506	Original Article

97	Ryosuke Fujinaka, Ta keshi Urade, Masa hiro Kido et al.	肝胆膵外科	Spontaneous rupture of splenic hilar lymph node metastasis from hepatocellular carcinoma.	Clinical journal of gastroenterology.202402;17(3):557-562	Case report
98	Yuhi Shimura, Sh ohei Komatsu, Yo shiaki Nagatani et al.	肝胆膵外科	The Usefulness of Total Tumor Volume as a Prognostic Factor and in Selecting the Optimal Treatment Strategy of Chemotherapeutic Intervention in Patients with Colorectal Liver Metastases.	Annals of surgical oncology.202310;30(11):6603-6610	Original Article
99	Yoshihide Nanno, Hiroc hika Toyama, Eis uke Ueshima et al.	肝胆膵外科	Transarterial chemoembolization for liver metastases of a pancreatic neuroendocrine neoplasm: a single-center experience.	Surgery today.202306;53(12):1396-1400	Others
100	Taiichiro Miyake, Hiro aki Yanagimoto, Daisuke Tsugawa et al.	肝胆膵外科	Utility of plasma D-dimer for diagnosis of venous thromboembolism after hepatectomy.	World journal of clinical cases.202401;12(2):276-284	Original Article
101	Satoshi Omiya, Shoh ei Komatsu, Ka zuki Terashima et al.	肝胆膵外科	Hepatic Resection vs Particle Therapy as an Initial Treatment for Single Hepatocellular Carcinoma: Bi-Institutional Propensity Score-Matched Analysis	J Am Coll Surg.202305;236(5):972-981	Original Article
102	Kosuke Iguchi, Ryota Sada, Shinji Matsumoto et al.	肝胆膵外科	DKK1-CKAP4 signal axis promotes hepatocellular carcinoma aggressiveness	Cancer Sci.202305;114(5):2063-2077	Original Article
103	Yasuhiro Ueda, Hiroak i Yanagimoto, Tetsuo Ajiki et al.	肝胆膵外科	Potential Role of Surgical Resection for Gallbladder Cancer in Elderly Patients	Am Surg.202312;89(12):5118-5123	Original Article
104	Yoshihide Nanno, Jame s S Hodges, Mar tin L Freeman et al.	肝胆膵外科	Early Metabolic Measures Predict Long-term Insulin Independence in Recipients of Total Pancreatectomy and Islet Autotransplantation	Transplant Direct.202312;10(1):e1561-e1561	Original Article
105	Takuya Mizumoto, T akeshi Takahara, Ak ihiro Nishimura et al.	肝胆膵外科	Challenge in optimizing robotic pancreaticoduodenectomy including nerve plexus hanging maneuver: a Japanese single center experience of 76 cases	Surg Endosc.202402;38(2):1077-1087	Original Article
106	Shohei Yoshimura, Yuichi Okata, Sere na Iwabuchi et al.	小児外科	Dienogest Use for Recurrent Pyosalpinx as a Long-Term Complication of Cloacal Exstrophy: A Case Report.	Journal of pediatric and adolescent gynecology.202306;36(3):328-330	Case report

107	Shohei Yoshimura, Yuichi Okata, Yoshitomo Samejima et al.	小児外科	Impact of peritoneal lavage temperature during laparotomy in a preterm peritonitis mouse model using cecal slurry	Journal of Pediatric Surgery Open.202307	Original Article
108	Yasuyuki Kameoka, Yuichi Okata, Hirochika Toyama et al.	小児外科	Laparoscopic Necrosectomy for walled-off necrosis following necrotizing pancreatitis.	Pediatrics international : official journal of the Japan Pediatric Society.2023;65(1):e15569-e15569	Case report
109	Samejima Y, Yoshimura S, Okata Y et al.	小児外科	Peroral endoscopic myotomy in pediatric patients with achalasia up to 12 years of age: a pilot study in a single-center experience in Japan	European Journal of pediatric surgery.Thieme.202309;34(1):97-101	Original Article
110	Uemura K, Komatsu M, Hara S et al.	小児外科	CYP1A1 Is a Useful Diagnostic Marker for Angiofibroma of Soft Tissue	The American Journal of Surgical Pathology.Wolters Kluswer.202303;47(5):547-557	Original Article
111	Yuma Onoi, Tomoyuki Matsumoto, Satoshi Sobajima et al.	整形外科	Clinical use of autologous adipose-derived stromal vascular fraction cell injections for hip osteoarthritis.	Regenerative therapy.202312;24(0):94-102	Original Article
112	Ryosuke Kuroda, Takahiro Niikura, Tomoyuki Matsumoto et al.	整形外科	Phase III clinical trial of autologous CD34+ cell transplantation to accelerate fracture nonunion repair.	BMC medicine.202310;21(1):386-386	Original Article
113	Nakamura J, Fukushima W, Ando W et al.	整形外科	Time elapsed from definitive diagnosis to surgery for osteonecrosis of the femoral head: a nationwide observational study in Japan	BMJ Open.BMJ.202403;14(3):e082342-e082342	Original Article
114	Makoto Nakamura, Mari Sakamoto, Kaori Ueda et al.	眼科	Detection of Relative Afferent Pupillary Defect and Its Correlation with Structural and Functional Asymmetry in Patients with Glaucoma Using Hitomiru, a Novel Hand-Held Pupillometer.	Journal of clinical medicine.202306;12(12)	Original Article
115	Mina Arai-Okuda, Yusuke Murai, Hidetaka Maeda et al.	眼科	Potentially compromised systemic and local lactate metabolic balance in glaucoma, which could increase retinal glucose and glutamate concentrations.	Scientific reports.202402;14(1):3683-3683	Original Article
116	Yasuyuki Sotani, Hisanori Imai, Yukako Iwane et al.	眼科	Usefulness of intraoperative optical coherence tomography to minimize the intraocular lens tilt during the intrascleral fixation: a clinical and experimental evaluation.	Scientific reports.202307;13(1):12065-12065	Original Article

計 5 件

計 3 件

117	Aya Kamimura, Aiko Miki, Maya Kishi et al.	眼科	Two-year outcome of half-time photodynamic therapy for chronic central serous chorioretinopathy with and without choroidal neovascularization.	PloS one.2023;18(5):e0284979-e0284979	Original Article
118	Takeshi Tomida, Kotaro Itohara, Kazuhiro Yamamoto et al.	薬剤部	A model-based pharmacokinetic assessment of drug-drug interaction between tacrolimus and nirmatrelvir/ritonavir in a kidney transplant patient with COVID-19	Drug Metabolism and Pharmacokinetics.202309	Original Article
119	Yasumasa Kakei, Ichiro Morioka, Takumi Imai et al.	薬剤部	Assessment of patients' characteristics associated with the efficacy and safety of oral valganciclovir treatment for infants with symptomatic congenital cytomegalovirus disease.	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy.202403	Original Article
120	Takuya Fujimoto, Yoji Hyodo, Takeshi Ishimura et al.	薬剤部	Association of Alpha-Actinin-3 Polymorphism With Sarcopenia in Kidney Transplant Recipients.	Transplantation proceedings.202305;55(4):824-828	Original Article
121	Masaaki Tanda, Kazuhiro Yamamoto, Tomoki Hori et al.	薬剤部	Association of STAT3, CYP3A5, and ABCG2 Polymorphisms With Osimertinib-induced Adverse Events in NSCLC Patients.	Anticancer research.202304;43(4):1775-1783	Original Article
122	Takeshi Ioroi, Yasumasa Kakei, Takahiro Ito et al.	薬剤部	Efficacy and safety of ibuprofen gargle for postoperative pain after mandibular third molar extraction: A phase II, placebo-controlled, double-blind, randomized crossover trial.	Clinical and experimental dental research.202311	Original Article
123	Hiroki Nishiguchi, Tomohiro Omura, Ayaka Sato et al.	薬剤部	Luteolin Protects Against 6-Hydroxydopamine-Induced Cell Death via an Upregulation of HRD1 and SEL1L.	Neurochemical research.202308	Original Article
124	Tomoyuki Sakaue, Kazuhiro Yamamoto, Kotaro Itohara et al.	薬剤部	Population pharmacokinetics of everolimus in renal transplant recipients receiving long-term multiple immunosuppressive therapy	Drug Metabolism and Pharmacokinetics. Elsevier BV.202403;;101009-101009	Original Article
125	Tomoko Kurimura, Kazuhiro Yamamoto, Hidekazu Tanaka et al.	薬剤部	Significance of pharmacist intervention to oral antithrombotic therapy in the pharmaceutical outpatient clinic of cardiovascular internal medicine: a retrospective cohort study.	Journal of pharmaceutical health care and sciences.202309;9(1):28-28	Original Article

計 4 件

126	Yumi Kitahiro, Kazuhiro Yamamoto, Kimikazu Yakushijin et al.	薬剤部	The Efficacy of Bepotastine Besilate Compared With Hydroxyzine Pamoate for Preventing Infusion Reactions to the First Dose of Rituximab in Patients With Non-Hodgkin Lymphoma: Protocol for a Phase II, Double-Blind, Multicenter Randomized Trial.	JMIR research protocols.202402;13:e54882-e54882	Others
127	Tomoki Hori, Kazuhiro Yamamoto, Takefumi Ito et al.	薬剤部	Upfront Use of First-/Second-Generation EGFR-TKI Followed by Osimertinib Shows Better Prognosis than Upfront Osimertinib Therapy in Japanese Patients with Non-small-cell Lung Cancer with Exon 19 Deletion: A Single-Center Retrospective Study	Biological and Pharmaceutical Bulletin. Pharmaceutical Society of Japan. 2023;66(6):788-795	Original Article
128	Kandai Nozu, Mayumi Sako, Seiji Tanaka et al.	臨床研究推進センター	Rituximab in combination with cyclosporine and steroid pulse therapy for childhood-onset multidrug-resistant nephrotic syndrome: a multicenter single-arm clinical trial (JSKDC11 trial).	Clinical and experimental nephrology. 2023;111	Original Article
129	Yasumasa Kakei, Ichiro Morioka, Takumi Imai et al.	臨床研究推進センター	Assessment of patients' characteristics associated with the efficacy and safety of oral valganciclovir treatment for infants with symptomatic congenital cytomegalovirus disease	Journal of Infection and Chemotherapy. Elsevier BV. 2024;30(3):240-243	Original Article
130	Tatsuya Mori, Hidehiko Kimura, Atsushi Fujita et al.	脳神経外科	A vertebrobasilar junction aneurysm successfully treated with a combination of surgical clipping and flow diverter placement based on the results of computational fluid dynamics analysis: illustrative case	Journal of Neurosurgery: Case Lessons. Journal of Neurosurgery Publishing Group (JNSPG). 2024;7(10):e2024037	Case report
131	Nao Tachizawa, Tatsuya Mori, Shunsuke Yamashita et al.	脳神経外科	Carotid artery stenting with double-layer micromesh stent (CASPER stent)—the time-related changes in residual ulceration outside the stent	Japanese Journal of Stroke. 2024;55(1):1-6	Original Article
132	Masahiro Sugihara, Atsushi Fujita, Yusuke Ikeuchi et al.	脳神経外科	Combined transarterial and transvenous embolization of anterior cranial fossa dural arteriovenous fistula.	Surgical neurology international. 2023;14(2):277-277	Case report
133	Satoshi Inoue, Atsushi Fujita, Eiji Kurihara et al.	脳神経外科	Steerable microcatheter for distal access of a giant cavernous carotid artery aneurysm during treatment with Pipeline Embolization Device: A case report and review of the literature	Surgical Neurology International. 2024;15(1):1-6	Review
134	Masaaki Kohta, Yusuke Ikeuchi, Shunsuke Yamashita et al.	脳神経外科	Transvenous embolization for a cavernous sinus dural arteriovenous fistula via a partially occluded superior petrosal sinus.	Acta neurologica Belgica. 2023;127(4):301-304	Case report

計 10 件

計 2 件

計 5 件

135	Takeshi Komatsu, Tatsuya Furukawa, Daisuke Kobayashi et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Corrigendum: Influences of Orogastric and Nasogastric Tubes on Sucking Pressure during Bottle Feeding in Immature Infants.	The Kobe journal of medical sciences.202309;69(1):S1-S1	Original Article
136	Yasuyuki Kajimoto, Hirota Shinomiya, Natsumi Uehara et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Expression of EGFR and p16 in Squamous Cell Carcinoma of External Auditory Canal.	The Kobe journal of medical sciences.202401;69(4):E144-E150	Original Article
137	Tatsuya Furukawa, Shun Tatehara, Masanori Teshima et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Expressions of NeuroD and GAP43 as diagnostic markers for olfactory neuroblastoma.	Auris,nasus,larynx.202306;50(3):358-364	Original Article
138	Takeshi Komatsu, Tatsuya Furukawa, Daisuke Kobayashi et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Influences of Orogastric and Nasogastric Tubes on Sucking Pressure during Bottle Feeding in Immature Infants.	The Kobe journal of medical sciences.202305;69(1):E25-E32	Original Article
139	Kotaro Tamagawa, Hirota Shinomiya, Takuya Okada et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Ligation of the ethmoid arteries in superselective intra-arterial infusion of cisplatin for advanced maxillary sinus cancer fed by the ophthalmic artery.	Head & neck.202305;45(5):E16-E24	Original Article
140	Hikari Shimoda, Masanori Teshima, Takayuki Murase et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Prognostic scores for patients with salivary adenoid cystic carcinoma without lymph node metastasis.	Oral oncology.202307;145:106491-106491	Original Article
141	Jun Yokoi, Takeshi Fujita, Natsumi Uehara et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Vestibular function after simultaneous bilateral cochlear implantation in adults.	Frontiers in neurology.2023;14:1304927-1304927	Original Article
142	Naoko Nakatani, Akihiro Tamura, Hiroaki Hanafusa et al.	小児科	A novel NFKB1 variant in a Japanese pedigree with common variable immunodeficiency.	Human genome variation.202403;11(1):15-15	Case report
143	Eri Okada, Tomoko Horinouchi, Tomohiko Yamamura et al.	小児科	All reported non-canonical splice site variants in GLA cause aberrant splicing.	Clinical and experimental nephrology.202305	Original Article
144	Yoshinori Nambu, Taku Shirakawa, Kayo Osawa et al.	小児科	Brothers with Becker muscular dystrophy show discordance in skeletal muscle computed tomography findings: A case report	SAGE Open Medical Case Reports.SAGE Publications.202401;12	Original Article

計 7 件

145	Shoko Sonehara,Ryosuke Bo,Yoshinori Nambu et al.	小児科	Newborn Screening for Spinal Muscular Atrophy: A 2.5-Year Experience in Hyogo Prefecture,Japan	Genes.MDPI AG.202312;14(12):2211-2211	Original Article
146	Kandai Nozu,Mayumi Sako,Seiji Tanaka et al.	小児科	Rituximab in combination with cyclosporine and steroid pulse therapy for childhood-onset multidrug-resistant nephrotic syndrome: a multicenter single-arm clinical trial (JSKDC11 trial).	Clinical and experimental nephrology.202311	Original Article
147	Shunsuke Goto,Hideki Fujii,Kentaro Watanabe et al.	腎臓内科	Renal protective effects of astragalus root in rat models of chronic kidney disease.	Clinical and experimental nephrology.202307;27(7):593-602	Original Article
148	Eri Okada,Naoya Morisada,Tomoko Horinouchi et al.	腎臓内科	Corrigendum to "Detecting MUC1 Variants in Patients Clinicopathologically Diagnosed With Having Autosomal Dominant Tubulointerstitial Kidney Disease"Kidney International Reports,Volume 7,Issue 4,April 2022,Pages 857-866.	Kidney international reports.202305;8(5):1127-1129	Original Article
149	Rie Takiguchi,Shinichi Nishi,Shunsuke Goto et al.	腎臓内科	Effect of Bisphosphonate and Active Vitamin D Analog on Glucocorticoid-induced Osteoporosis in Patients with IgA Nephropathy: A Retrospective Observational Study.	The Kobe journal of medical sciences.202304;69(1):E9-E15	Original Article
150	Kentaro Watanabe,Hideki Fujii,Kohei Okamoto et al.	腎臓内科	Exploring the implications of blocking renin-angiotensin-aldosterone system and fibroblast growth factor 23 in early left ventricular hypertrophy without chronic kidney disease	Frontiers in Endocrinology.2023;14	Original Article
151	Toshiki Hyodo,Shigeharu Hara,Shunsuke Goto et al.	腎臓内科	Immunohistological analysis reveals IgG1-dominant immunophenotype of tubulointerstitial nephritis unassociated with IgG4-related diseases.	International urology and nephrology.202402	Original Article
152	Yuma Nose,Hideki Fujii,Shunsuke Goto et al.	腎臓内科	Investigation of bone mineral density and the changes by enzyme replacement therapy in patients with Fabry disease.	Molecular genetics and metabolism.202308;139(4):107634-107634	Original Article
153	Shunsuke Goto,Hideki Fujii,Kentaro Watanabe et al.	腎臓内科	Renal protective effects of astragalus root in rat models of chronic kidney disease.	Clinical and experimental nephrology.202307;27(7):593-602	Original Article
154	Shunsuke Goto,Fujii H,Mieno M et al.	腎臓内科	Survival benefit of living donor kidney transplantation in patients on hemodialysis.	Clinical and experimental nephrology.202310	Original Article

計 5 件

計 8 件

155	Kenji Tanimura, S higeru Saito, Sayak a Tsuda et al.	産科婦人科	Anti- β 2-glycoprotein I/HLA-DR Antibody and Adverse Obstetric Outcomes	International Journal of Molecular Sciences.202307;24(13)	Original Article
156	Yosuke Ono, Shinichiro Wada, Hajime Ota et al.	産科婦人科	Anti- β 2-glycoprotein I/HLA-DR antibody in infertility	Journal of Reproductive Immunology.202308;158	Original Article
157	Katsuhiko Yoneda, Yo Ueda, Kenji Tanimura et al.	産科婦人科	Association of anti- β 2-glycoprotein I/HLA-DR complex antibody with arterial thrombosis in female patients with systemic rheumatic diseases	Arthritis Research and Therapy.202312;25(1)	Original Article
158	Tomohiro Sameshima, Mariko Ashina, Taku ya Fukuda et al.	産科婦人科	Range of protein induced by vitamin K absence or antagonist-II levels in neonates at birth.	Scientific reports.202401;14(1):921-921	Original Article
159	Imafuku Hitomi, Tanimura Kenji, Masuko Naohisa et al.	産科婦人科	Advantages of sensor-augmented insulin pump therapy for pregnant women with type 1 diabetes mellitus.	J Diabetes Investig.Wiley.202309;14(12):1383-1390	Original Article
160	Keitaro Yamanaka , Keiichi Washio , Akiko Uchida et al.	産科婦人科	Rapid reduction of adenomyosis coexisting with leiomyoma volume during treatment with Relugolix	Gynecol Endocrinol.Taylor & Francis.202308;39(1):2237121-2237121	Original Article

計 6 件

計 160

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別	計 件
1	藤本 昌大, 立原 素子, 桂田 直子 et al.	呼吸器内科	経気管支肺クライオ生検により診断 したdiffuse pulmonary meningotheiomatosisの1例	気管支学.(一社)日本呼吸器内視 鏡学会.202403;46(2):85-89	Case report	計 1 件
2	津田 一範, 吉崎 哲也, 豊永 高史 et al.	消化器内科	当院での虫垂開口部の大腸病変に 対するESDの治療戦略と成績	Gastroenterological Endoscopy.(一社)日本消化器内 視鏡学 会.202304;65(Suppl.1):892-892	Original Article	計 2 件
3	高山 弘志, 森田 圭紀, 豊永 高史	消化器内科	非乳頭部十二指腸腫瘍の内視鏡診 療 表在性非乳頭部十二指腸上皮性 腫瘍に対するD-LECSの治療成績と 合併症の特徴についての検討	Gastroenterological Endoscopy.(一社)日本消化器内 視鏡学 会.202310;65(Suppl.2):1937-1937	Original Article	
4	草壁 明日 香,坂東 弘 教,山本 雅 昭 et al.	糖尿病・内分泌内科	74歳で診断に至ったSCS合併 Sheehan症候群の一例	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202310;99(2):587- 587	Others	計 9 件
5	本村 悠馬, 浦井 伸,坂 東 弘教 et al.	糖尿病・内分泌内科	Cushing症候群患者が認識する特異 的症候と医師の診断との乖離	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学 会.202305;99(Suppl.Update):51- 54	Others	
6	辻本 泰貴, 山本 雅昭, 坂東 弘教 et al.	糖尿病・内分泌内科	クッシング症候群におけるメチラポン 単回投与への反応性の検討	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202310;99(2):622- 622	Original Article	
7	木戸 希,山 本 雅昭,坂 東 弘教 et al.	糖尿病・内分泌内科	メチラポン漸増時にPCP増悪を認め たクッシング病疑いの一例	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202310;99(2):581- 581	Case report	
8	佐々木 百 合子,坂東 弘教,神澤 真紀 et al.	糖尿病・内分泌内科	ラトケ嚢胞における染色マーカーの 有用性と臨床像の関連	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202310;99(2):569- 569	Others	
9	山本 雅昭	糖尿病・内分泌内科	下垂体疾患の診断と治療 Cushing病 の診断と治療	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202305;99(1):228- 228	Review	
10	浦井 伸,蟹 江 慶太郎, 坂東 弘教 et al.	糖尿病・内分泌内科	抗PIT-1下垂体炎新規2例を加えた9 症例の臨床的特徴	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202305;99(1):311- 311	Others	
11	山本 雅昭	糖尿病・内分泌内科	成人成長ホルモン分泌不全症 UPDATE	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202401;99(4):1130- 1130	Review	
12	渡邊 美季, 浦井 伸,坂 東 弘教 et al.	糖尿病・内分泌内科	免疫チェックポイント阻害薬が惹起し た腫瘍随伴性ACTH単独欠損症	日本内分泌学会雑誌.(一社)日本 内分泌学会.202305;99(1):295- 295	Others	

13	掛地 吉弘	食道胃腸外科	【がん診療における層別化医療の現状と今後の展望】胃がんにおける層別化医療の現状と今後の展望	日本外科学会雑誌.(一社)日本外科学会.202305;124(3):253-260	Original Article
14	後藤 裕信, 小寺澤 康文, 加藤 喬 et al.	食道胃腸外科	【ロボット支援手術-標準治療としてのさらなる普及を目指して-】消化器外科領域のロボット支援手術 食道切除術 胸腔鏡手術との比較	日本臨床.(株)日本臨床社.202401;82(増刊1 ロボット支援手術):163-169	Original Article
15	金治 新悟, 掛地 吉弘	食道胃腸外科	【消化管間質腫瘍(GIST)の診断と治療の最前線】治療 外科治療 臓器機能温存に向けた治療戦略 十二指腸	外科.(株)南江堂.202402;86(2):127-132	Original Article
16	金治 新悟, 掛地 吉弘	食道胃腸外科	【消化管手術での”困難例”対処法-こんなとき,どうする?】胃 十二指腸切離困難例への対処法	臨床外科.(株)医学書院.202306;78(6):696-702	Original Article
17	阪口 博哉, 児玉 裕三, 掛地 吉弘	食道胃腸外科	【食道・胃・大腸癌の最新情報】胃癌 胃がん内視鏡治療の進歩	臨牀と研究.大道学館出版部.202306;100(6):694-698	Original Article
18	山下 公大, 長坂 暢, 安達 祐里 et al.	食道胃腸外科	【免疫療法を支える基礎研究】深層学習アルゴリズムを基盤としたイメージングサイトメトリーによる大腸癌腫瘍免疫微小環境の解析	癌と化学療法.202309;50(9):955-957	Original Article
19	掛地 吉弘, 伊東 文生, 片岡 洋望 et al.	食道胃腸外科	消化管腫瘍の新展開 2021~2023	日本消化管学会雑誌.202312;7(1):43-51	Original Article
20	中西 崇, 長谷川 寛, 澤田 隆一郎 et al.	食道胃腸外科	鼠径部転移を伴う直腸肛門腺癌に対する術前療法と選択的側方郭清の治療成績	癌と化学療法.(株)癌と化学療法社.202312;50(13):1374-1377	Original Article
21	都 鍾智, 松田 武, 加藤 喬 et al.	食道胃腸外科	直腸癌における術前補助化学放射線療法前の核内β-カテニンの解析はその治療効果を予測し得る	癌と化学療法.(株)癌と化学療法社.202312;50(13):1370-1373	Original Article
22	山下 公大, 長坂 暢, 澤田 隆一郎 et al.	食道胃腸外科	深層学習に基づくイメージングサイトメトリーによる直腸癌の新規予後因子の探索	Cytometry Research.(一社)日本サイトメトリー学会.202307;33(Suppl.):74-74	Original Article
23	尾藤 祐子, 大片 祐一, 富岡 雄一郎 et al.	小児外科	【検査・処置・手術の合併症:予防と対策】手術・治療 気管・気管支手術	小児外科.(株)東京医学社.202311;55(11):1180-1185	Review
24	亀岡 泰幸, 花房 宏昭, 大片 祐一 et al.	小児外科	【小児外科疾患に関連する症候群】 Waardenburg症候群	小児外科.(株)東京医学社.202304;55(4):454-457	Review
25	富岡 雄一郎, 大片 祐一, 亀岡 泰幸 et al.	小児外科	8K映像を用いた外科手技の教育システム	日本小児外科学会雑誌.(一社)日本小児外科学会.202305;59(3):500-500	Original Article

26	久野 春香, 堀之内 智子, 近藤 淳 et al.	小児外科	アダリムマブを導入した潰瘍性大腸炎の12歳男児例	日本小児科学会雑誌.(公社)日本小児科学会.202304;127(4):621-621	Case report
27	福田 拓弥, 堀之内 智子, 近藤 淳 et al.	小児外科	一過性の細胞免疫不全所見を認めた超早期発症型炎症性腸疾患の1例	日本小児科学会雑誌.(公社)日本小児科学会.202304;127(4):625-626	Case report
28	吉村 翔平, 大片 祐一, 堀之内 智子 et al.	小児外科	小児炎症性腸疾患診断時の血清Leucine-rich α -2 glycoprotein(LRG)値と病変範囲,臨床的重症度との関連の検討	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌.(一社)日本小児栄養消化器肝臓学会.202310;37(Suppl.):81-81	Original Article
29	亀岡 泰幸, 富岡 雄一郎, 大片 祐一 et al.	小児外科	成人移行した重症心身障がい者に対して鹿野式声門閉鎖術を行った1例	日本小児呼吸器学会雑誌.日本小児呼吸器学会.202309;34(Suppl.):126-126	Case report
30	高成田 祐希, 中村 優希, 鮫島 由友 et al.	小児外科	生来健康な9歳男児の骨盤内腫瘍病変について,鑑別疾患と診断方法をどう考えるか?	日本小児外科学会雑誌.(一社)日本小児外科学会.202312;59(7):1196-1196	Case report
31	近藤 淳, 堀之内 智子, 岡本 典大 et al.	小児外科	当院における小児炎症性腸疾患症例の総括と検討	日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌.(一社)日本小児栄養消化器肝臓学会.202304;37(1):35-35	Case report
32	口分田 啓, 鮫島 由友, 高成田 祐希 et al.	小児外科	保存的加療を施行した外傷性十二指腸損傷の1例 Bリンパ芽球性リンパ腫(B-LBL:B-lymphoblastic lymphoma)治療中に発症した膵仮性嚢胞(PPC:pancreatic pseudocyst)の内視鏡的経胃ドレナージ不応例に対して経皮的ドレナージを行った1例	日本小児外科学会雑誌.(一社)日本小児外科学会.202312;59(7):1168-1168	Case report
33	新倉 隆宏, 大江 啓介, 福井 友章 et al.	整形外科	四肢長管骨偽関節患者を対象としたBMP-2・人工骨複合体の第I/II相治療の結果	骨折.(一社)日本骨折治療学会.202306;45(Suppl.):S279-S279	Original Article
34	古江由依, 山本和宏, 木村文司 et al.	薬剤部	潜在的不適切処方の中止維持における退院時薬剤情報提供の効果	医療薬学.202402;50(2):75-83	Original Article
35	飯田 真之, 大村 友博, 志田 有里 et al.	薬剤部	非がん性疼痛を有する患者のオピオイド使用状況モニタリングにおける薬剤師介入の効果	日本緩和医療薬学雑誌.(一社)日本緩和医療薬学会.202309;16(3):65-71	Original Article
36	藤井 秀毅	腎臓内科	【腎臓病とcardiometabolic remodeling】FGF23と心筋傷害	日本腎臓学会誌.(一社)日本腎臓学会.202307;65(5):451-457	Original Article
37	鶴田 友加里, 河野 圭志, 早川 郁代 et al.	腎臓内科	CARTにおける遠心分離による血球除去の経験	日本アフェレンス学会雑誌.(一社)日本アフェレンス学会.202310;42(Suppl.):142-142	Original Article
38	黒野 博義, 渡邊 健太郎, 坂本 和雄 et al.	腎臓内科	COVID-19感染を契機にネフローゼ症候群を発症し,腹性増殖性糸球体腎炎(MGPN)と診断された1例	日本腎臓学会誌.(一社)日本腎臓学会.202309;65(6-W):771-771	Original Article

計 10 件

計 1 件

計 2 件

39	岡本 英久, 河野 圭志, 鶴田 友加里 et al.	腎臓内科	ループス腎炎に血栓性血小板減少性紫斑病を合併し血漿交換療法が奏功した1例	日本アフェレシス学会雑誌(一社)日本アフェレシス学会.202310;42(Suppl.):138-138	Original Article
40	錦 恵那, 清水 真央, 渡邊 健太郎 et al.	腎臓内科	詳細な遺伝子解析により診断に至った常染色体優性尿細管間質性腎疾患(ADTKD)の1例	日本腎臓学会誌(一社)日本腎臓学会.202309;65(6-W):804-804	Original Article
41	藤井 秀毅	腎臓内科	腎移植患者の心血管系トラブル対策 腎移植患者における術前の心血管疾患の管理	移植(一社)日本移植学会.202309;58(総会臨時):183-183	Original Article
42	田代 裕己, 兵頭 洋二, 遠藤 貴人 et al.	腎臓内科	腎移植患者の尿培養プロファイルの比較検討	移植(一社)日本移植学会.202309;58(総会臨時):267-267	Original Article
43	兵頭 洋二, 田代 裕己, 遠藤 貴人 et al.	腎臓内科	当院における生体腎移植適応の決定について	移植(一社)日本移植学会.202309;58(総会臨時):330-330	Original Article
44	川勝 拓也, 河野 圭志, 渡邊 健太郎 et al.	腎臓内科	多発性嚢胞腎を原疾患とした生体腎移植後に巣状分節性糸球体硬化症を発症した一例	移植(一社)日本移植学会.202311;58(2):172-172	Original Article

計 9 件

計 44 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	①・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	①・無
・ 手順書の主な内容 ○ 審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	①・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	①・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 1 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 9 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning 又は臨床研究推進セミナーを受講する。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・神戸大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院ならびに兵庫県・大阪府の関連病院・連携施設群の中で、内科専門医を取得することを一つの目標として、内科医としての幅広い臨床能力を育成するためのものである。初期臨床研修を修了した後に、プログラム内の病院群の中で3年間専攻医として研修を修了した時点で、内科専門医受験資格を獲得することを目標とする。

・神戸大学放射線科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院放射線科/放射線腫瘍科を専門研修基幹施設として、日本医学放射線学会に認定された 9つの総合修練機関、3つの特殊修練機関、21の修練機関に1つの関連施設を加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムである。

・神戸大学小児科専門研修プログラム

本プログラムは、日本小児科学会が求める「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるに必要かつ十分なプログラムであるだけでなく、将来のsubspecialty や個人のキャリアパスにも十分配慮した多様な選択肢を持つプログラムである。

・神戸大学皮膚科研修プログラム

本プログラムは、研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

・神戸大学病院 連携施設 精神科専門医研修プログラム

専攻医は統合失調症、気分障害をはじめとする児童思春期から老年期にわたる多岐の精神疾患患者の主治医となり、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、これらの精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法の中核的なカリキュラムに従った研修プログラムに参加する。神戸大精神科研修プログラムの連携施設には、神戸市立中央市民病院をはじめとする 9 施設の総合病院精神科神経科、県立ひょうごこころの医療センターをはじめとする 19 施設の公立・私立単科精神科病院が含まれる。専攻医はこれらの医療機関をローテートしながら研鑽を積み、精神科医としての診療能力を向上させつつ、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格をも取得することを目標とする。

・神戸大学外科専門研修プログラム

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科学、肝胆膵外科学、心臓血管外科学、呼吸器外科学、小児外科学、乳腺内分泌外科学の 6 分野ならびに外科系講座の災害・救急医学分野が連携し、プログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修を計画することができる。

・神戸大学整形外科専門研修プログラム

本プログラムでは、基幹施設および連携施設全体においてスポーツ医学、関節外科学、脊椎外科学、手外科学、外傷学、骨軟部腫瘍学、小児整形外科、リハビリテーション医学などの専門性の高い整形外科診療を、満遍なく、幅広く経験することが可能である。また、整形外科専門医資格取得後に、サブスペシャリティ領域の研修へ発展させていくための基礎をしっかりと修得することができる。さらに基幹施設である神戸大学医学部附属病院における研修では、専門性の高い臨床研修に加え、神戸大学の特徴である大学院大学という特徴を活かし、将来の大学院進学に備えた臨床・基礎研究のアプローチを学ぶことが可能である。

・神戸大学医学部脳神経外科専門研修プログラム

神戸大学医学部附属病院および連携施設において、それぞれの専門性を有した指導医のもと、症例を担当し臨床実地経験を蓄積する。大学病院では最新鋭の 3 テスラ術中 MRI 装置やハイブリッド手術室を用いた先進的な医療に参加できる。連携施設は兵庫県内にほぼ集約され、基幹施設と連携施設での 2019 年の年間手術総数は 4800 件余りにおよび脳神経外科の全領域をカバーしている。地域の第一線医療、三次救急医療、脳血管障害専門医療、血管内治療、小児神経疾患、脊髄疾患、機能的疾患、脳腫瘍の集約的治療、神経内視鏡手術、定位放射線治療などの特色ある治療を行っている連携施設をローテーションすることができることは、当プログラムの大きな特徴である。大学以外の各連携施設でも十分な指導医と豊富な症例を有しており、診療支援・教育学習機会が充実している。

・神戸大学眼科専門研修プログラム

眼科の 6 領域である、角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器のそれぞれに専門家が在籍している。専門研修基幹施設には、7つの専門外来を設置しており（緑内障、神経眼科、斜視弱視・小児眼科、網膜硝子体、ぶどう膜、角膜・コンタクト、眼窩）、専門研修連携施設にも、一般臨床から幅広い領域に対応できる指導医を派遣している。これらから、基幹施設、連携施設での研修を通じて、どの分野においても偏りなく眼科の最新医療を学べる体制が整っている。

・神戸大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格を涵養し、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭・喉頭、頭頸部の病態や疾患に対する診断と治療に関する豊富な知識と技術、経験を有し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、更なる医療の発展にも寄与することができる耳鼻咽喉科専門医の育成を目的としている。

・神戸大学泌尿器科専門医研修プログラム

神戸大学医学部附属病院を基幹施設とする27の連携施設から構成される。本研修施設群では、小児泌尿器科、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路結石症、性機能障害、生殖医療、尿路感染症、女性泌尿器科、腎移植、腹腔鏡手術、小切開手術などの領域を専門的に実施する連携病院を擁し、また、ロボット支援手術を実施する病院が15施設に及ぶ。以上のプログラムの特性から、一般的な泌尿器科診療に加えて量的にも質的にも多彩な専門的診療を研修する機会が得られる。

・神戸大学産科婦人科研修プログラム

本専門研修プログラムでは、医師としてまた産婦人科医としての基本的な診療技術、幅広い知識を習得し、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケア、生殖医療、内視鏡手術、さらに医療過疎地における地域医療に特化した連携施設での研修により、幅広く、より高度な知識・技能を持つことが可能となる。研修終了後は、兵庫県下のみならず地域医療の担い手として、県外も含めた希望する施設で就業することが出来る。さらに専門研修施設群における専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門医の研修を開始する準備も整っているため、スムーズに個々のスキルアップを図ることが出来る。

・神戸大学形成外科研修プログラム

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者の Quality of Life の向上に貢献する外科系専門分野である。形成外科医制度は、形成外科医として有すべき診断能力の水準と認定のプロセスを明示するものであり、専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科医を育成することを目的としている。

・神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

本プログラムでは、4年間のうち最短で1年間は責任基幹施設である神戸大学医学部附属病院で研修を行うこととし、プログラムに所属する全ての専攻医が、原則として研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設および連携施設において、専門研修に必要なとされる特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築している。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。また、専門研修基幹施設（神戸大学医学部附属病院）での研修

には、集中治療およびペインクリニック領域での研修も含まれる。

・神戸大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム

本プログラムでは、手術手技などの救急科医としての専門的能力は当然として、大学ならではの基礎から臨床、日常診療から最先端の医療まで臓器・分野を越えた幅広い領域の知識や技術を学ぶ事が出来る。災害救急医学分野の協力を得て、必修である救命・救急医療の充実を計っている。さらに3年間の専門研修プログラム終了後も様々な診療特色を持つ関連病院への出向や大学院博士課程へ進学、国内外への留学など、幅広い選択肢の中から、自身の選択した専門分野（サブスペシャリティ）で救急科医師としての研鑽を積むことが可能である。

・神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム

大学病院をも含む数多い関連施設群を活用し、多分野にわたる基本的な病理診断学の習得は勿論、個人の興味に応じた医療最前線の病理学の両者をバランス良く学ぶことを目指す。各専門分野にわたる豊富な指導教官による充実した指導と多彩な症例を経験することができる。各分野に精通した専門家が多数在籍し、general pathology を十分に習得した上で、各自のsubspecialty を持った理想的な病理医を育成する。各専攻医の希望にきめ細かく対応。基礎病理学分野群、あるいは他大学の基礎講座とも連携し、診断病理医として有用な分子病理学のスキル習得も可能である。

・神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム

神戸大学リハビリテーション科研修プログラム(PG)は、患者から信頼され、まず、標準的な医療を提供できるリハビリテーション科専門医となるために、急性期、回復期、生活期のリハビリテーション医療に精通し、脳卒中、運動器、切断、小児、内部障害、そしてがんのリハビリテーションまで幅広く知識と経験を得られるよう、適切な教育を行い、十分な知識と経験を身に着けるため、神戸、播磨地区の病院群での研修を中心に構成されたプログラムになっている。本研修プログラムは、現在まで神戸大学医学部附属病院とその関連病院の先輩方が築き上げた素晴らしいリハビリテーション研修施設を横断して研修することで、日本をリードするリハビリテーション科専門医となるための基礎を身に着けてもらえると考えている。

・神戸大学臨床検査専門研修プログラム

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものである。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	141人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
児玉 裕三	内科	教授	30年	
村上 卓道	放射線科	教授	38年	
野津 寛大	小児科	教授	27年	
久保 亮治	皮膚科	教授	30年	
菱本 明豊	精神科神経科	教授	28年	
岡田 健次	外科	教授	36年	
黒田 良祐	整形外科	教授	34年	
篠山 隆司	脳神経外科	教授	30年	
中村 誠	眼科	教授	35年	
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	38年	

三宅 秀明	泌尿器科	教授	31年
寺井 義人	産科婦人科	特命教授	32年
寺師 浩人	形成外科	教授	38年
溝渕 知司	麻酔科	教授	39年
小谷 穰治	救命救急科	教授	37年
伊藤 智雄	病理診断科	教授	32年
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	28年
三枝 淳	臨床検査部門	部長	28年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、病棟薬剤業務についての知識・技能を習得するための講義・演習形式のスキルアップセミナーおよび症例検討会を実施した。
研修の期間・実施回数	2023/4/1～2024/3/31 計39回
研修の参加人数	各5～52名、延817名
2. 研修の主な内容	新人看護師を対象に、「薬剤の基礎知識」をテーマとする講義（動画）を実施した。
研修の期間・実施回数	2023/4/8、1回60分の動画講義
研修の参加人数	130名
3. 研修の主な内容	病棟看護師を対象に、「医療用麻薬と泌尿器科で使用する抗がん薬」「ステロイド・麻薬・睡眠薬・抗精神病薬・高K製剤」、「簡易懸濁」、「睡眠薬・鎮静薬」をテーマに講義を行った。
研修の期間・実施回数	2023/4/10、4/20、12/7、2024/2/2 計4回
研修の参加人数	延59名
4. 研修の主な内容	医師事務作業補助者を対象に、「薬剤部業務の解説」をテーマに講義を行った。
研修の期間・実施回数	2023/8/17 1回60分の動画講義
研修の参加人数	9名
5. 研修の主な内容	病棟看護師を対象に、以下の内容をテーマに講義を行った。 ・小児科病棟でよく使用される薬剤について ・鎮痛薬／鎮静薬について ・インスリンの使用について ・高濃度注射用カリウム製剤の安全管理について
研修の期間・実施回数	2023/4/3 1回150分の講義 計130回（1名につき1回）
研修の参加人数	130名
6. 研修の主な内容	看護部全職員を対象に「採用者オリエンテーション、新人看護職員研修、ラダーⅡ、ラダーⅢ、ラダーⅣ、ラダーⅤ、教育指導者養成コース」等の研修会を実施した。
研修の期間・実施回数	108回・215時間（対面176.5時間、オンデマンド配信40時間）
研修の参加人数	延6286名
7. 研修の主な内容	「末梢静脈カテーテル留置技術トレーニングプログラム」に基づき新採用者を対象に講義演習、実施試験(①e-learningで講義視聴②確認テスト、③シミュレーターを用いた演習、④患者を対象とした実施確認)を行った。
研修の期間・実施回数	①②はWEB上で常時受講可能、③個別に0.5日
研修の参加人数	延849名
8. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、放射線関連学会での演題に対する予演会および学会参加で得た知見等に対する報告会を実施した。
研修の期間・実施回数	①日本放射線技術学会総会学術大会 報告会3回 ②日本CT技術学会学術大会 予演会/出張報告会2回

<p>研修の参加人数</p>	<p>③小線源治療部会学術大会・ISMRM 報告会 ④肝エラストグラフィ撮像技術講習会 報告会 ⑤日本放射線技術学会秋季大会予演会/報告会・日本診療放射線技師会学術大会報告会 3回 ⑥兵庫県放射線技師会学術大会/日本放射線腫瘍学会学術大会予演会 ⑦文科省研修報告会 ⑧日本心臓血管放射線研究会 予演会/報告会 2回</p> <p>①35名・38名・30名 ②36名・35名 ③31名 ④27名 ⑤27名・32名・29名 ⑥31名 ⑦31名 ⑧22名・26名</p>
<p>10. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数 研修の参加人数</p>	<p>医療技術部新規採用職員を対象に以下の研修を実施した ①医療技術部職員が所属する各職場の見学 ②医療技術職員の事例を通しての接遇での困りごとの対応について ③医療技術職員の医療安全について ④感染対策について（実技） ⑤患者さんの安全な移乗方法について（実技） ⑥就業規則について ⑦電子カルテの見方 各職種がどの部分を見ていて、どの部分を職員に知っていてほしいのかを多職種が説明する</p> <p>年1回 各18名</p>
<p>11. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数 研修の参加人</p>	<p>リハビリテーション部の技士を対象に「オートテングプロ治療効果と使用方法の研修会」を実施した。</p> <p>1回 8名</p>
<p>12. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数 研修の参加人数</p>	<p>病理部の新規採用職員を対象に、以下の研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者情報の守秘義務 ・倫理 ・病院オリエンテーション ・ポケットマニュアルの説明 ・接遇 ・感染予防 ・品質マネジメントシステム <p>2023/4/1～1週間 1名</p>
<p>13. 研修の主な内容</p> <p>研修の期間・実施回数 研修の参加人数</p>	<p>病理部の職員を対象に、以下の研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害インシデントの影響を回避または抑制することを含む安全衛生 ・避難訓練（机上訓練） <p>年2回 全員</p>

14. 研修の主な内容	病理部の職員を対象に、「ISO 15189 : 2022関連の研修会」を実施した。
研修の期間・実施回数	1時間・1回
研修の参加人数	全員
15. 研修の主な内容	病理部の新規採用職員を対象に、以下の研修を実施した。 ・患者情報の守秘義務 ・倫理 ・病院オリエンテーション ・ポケットマニュアルの説明 ・接遇 ・感染予防 ・品質マネジメントシステム
研修の期間・実施回数	2023/4/1～1週間
研修の参加人数	3名
16. 研修の主な内容	検査部、輸血・細胞治療部職員対象に、以下の研修会を実施した。 ①新検査室の付加価値向上を求めて～診断支援システムについて～ ②Roche生化学分析装置cobas<702>について ③学会参加報告会による最新の臨床検査分野の知見について ④自己免疫疾患について ⑤ISO15189 2022(第4版)フレキシブル認定の運用手順の変更点について ⑥現在の日本の医療政策についての課題と今後の検査部の抱える課題について
研修の期間・実施回数	6回
研修の参加人数	①39名 ②43名 ③47名 ④31名 ⑤85名 ⑥49名
17. 研修の主な内容	医療従事者を対象に、「NEST勉強会」として栄養管理についての知識を習得するための講義を実施した。
研修の期間・実施回数	2023/4/1～2024/3/31 計4回
研修の参加人数	各20～30名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、薬・業務に関するインシデントや対策、薬・治療に関する知識、病棟業務についての標準化・効率化やインシデント対策の共有を図るために薬局会、ミーティングを実施した。
研修の期間・実施回数	2023/4/1～2024/3/31 計24回
研修の参加人数	各25～80名、延1232名
2. 研修の主な内容	師長、副師長を対象とした研修会を開催した。
研修の期間・実施回数	7時間 7回（WEBミーティング）
研修の参加人数	延159名
3. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、他大学での業務経験および海外での留学経験からの知見等に対する報告会を行った。 また、各装置に特化した個別研修を必要時に開催した。
研修の期間・実施回数	①国立大人事交流報告会 1回 ②海外留学報告会 1回 ③装置使用に係る個別研修 14回
研修の参加人数	①36名

	②27名 ③各回1~8名
4. 研修の主な内容	病理部の細胞検査士を対象に、以下の研修を実施した。 ①細胞診症例検討会 ②口腔細胞診ワークショップ ③細胞診供覧会（陽性チェック）
研修の期間・実施回数	①1時間・5回 ②1時間・1回 ③0.5時間・週5回
研修の参加人数	①②細胞検査士全員、③細胞診業務担当者
5. 研修の主な内容	病理部の業務担当職員を対象に、「機器導入時使用説明会」を実施した。
研修の期間・実施回数	1~2時間、3回
研修の参加人数	機器使用者全員
6. 研修の主な内容	病理部の業務開始職員を対象に、以下の研修を実施した。 ①FISH業務 ②免疫染色業務 ③組織標本作製業務 ④迅速標本作製業務 ⑤切出し補助業務
研修の期間・実施回数	1~2時間、1~3回
研修の参加人数	①10名 ②10名 ③1名 ④1名 ⑤2名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
1. 研修の主な内容	日本医療薬学会地域薬学ケアの研修生を対象に、部内薬剤師向けに開催したスキルアップセミナーおよび症例検討会、院内で開催された抗悪性腫瘍剤審査委員会やチーム医療・診療科のカンファレンスを公開した。また、対応に苦慮する症例に対する指導を行い、研修生による症例検討会を開催した。
研修の期間・実施回数	2023/4/1~2024/3/31 計39回(スキルアップセミナー、症例検討会)、20回(抗悪性腫瘍剤審査委員会)、月1回(症例に対する指導)
研修の参加人数	4名
2. 研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 高齢者医療コース研修生 看護師2名に対して、高齢者の「薬学概論」「ポリファーマシー」「糖尿病治療」「栄養管理」「がん薬物療法」「アドバンス・ケア・プランニング」について講義を行った。
研修の期間・実施回数	2023/6/19~7/14 1回1.5時間、計6回(薬剤部対応分)
研修の参加人数	5名
3. 研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 栄養医療コース研修生に対して、研修期間中に「静脈栄養」「簡易懸濁」について講義を行った。
研修の期間・実施回数	2023/12/9、40分、1回(薬剤部対応分)
研修の参加人数	29名

4.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 災害・救急医療コース研修生に対して、研修期間中に「災害時の薬事」について講義を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/10/18、90分、1回（薬剤部対応分）
	研修の参加人数	4名
5.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 感染症医療コース研修生に対して、「抗菌薬のPK/PD」「抗菌薬のTDM」「抗菌薬適正使用」「感染対策」「消毒薬」について講義、実習を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/10/16～2024/2/3 計20日間
	研修の参加人数	2名
6.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 周産期医療コース研修生に対して、「薬と先天奇形」「授乳中の薬物治療」について講義、演習を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/11/6～17
	研修の参加人数	1名
7.	研修の主な内容	日本病院薬剤師会妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修の研修生に対して、研修期間中に、妊婦・授乳婦に対するカウンセリング技術や情報評価スキルの確認トレーニング等の実技研修を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/11/6～10、12/4～8、2024/2/5～9 1人5日、計15日
	研修の参加人数	3名
8.	研修の主な内容	日本医療薬学会がん専門薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に「薬物療法の実践」「チーム医療への参画」等の研修の進捗管理を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/4/1～2024/3/31 月1回程度
	研修の参加人数	2名
9.	研修の主な内容	日本医療薬学会がん専門薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に「薬物療法の実践」「チーム医療への参画」等の研修の進捗管理を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/4/1～2024/3/31 月1回程度
	研修の参加人数	5名
10.	研修の主な内容	地域の看護職者に対して院内研修を公開して受け入れた。
	研修の期間・実施回数	10時間、10回
	研修の参加人数	延75名
11.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 高齢者医療コースの研修生 看護師2名に対して、高齢者の「チーム医療」「病院給食」「栄養管理」等について講義を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/7 1回1～2.5時間、計4回
	研修の参加人数	2名
12.	研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 栄養医療コース研修生に対して、「栄養の基礎」について講義を行った。
	研修の期間・実施回数	2023/12/9、40分、1回
	研修の参加人数	約20名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌
管理担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 石原 卓也 管理課長 高安 健一 学務課長 勝呂 新 研究支援課長 玉田 和大 医事課長 河村 敏幸 医療支援課長 中出 泰介

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療支援課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録センター	
		看護記録	診療録センター	
		検査所見記録	診療録センター	
		エックス線写真	各診療科	
		紹介状	診療録センター	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録センター	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	カルテ室	
			入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			医療支援課	
		パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第一号	医薬品安全管理責任者の配置状況	
	第二号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
	第四号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第五号	医療機器安全管理責任者の配置状況	
	第六号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
	第七号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
第八号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所 (外部窓口)
		職員研修の実施状況	医療支援課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌
閲覧担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 石原 卓也 管理課長 高安 健一 学務課長 勝呂 新 研究支援課長 玉田 和大 医事課長 河村 敏幸 医療支援課長 中出 泰介
閲覧の求めに応じる場所	・医学部管理棟(総務課)
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により総務課に申込を行い、応接室にて閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 「医療にかかる安全管理のための指針」を定め、以下の内容を記載している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療安全管理委員会その他の病院の組織に関する基本事項 3. 医療安全教育のための職員研修に関する基本方針 4. 医療安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>本院における医療に係る安全管理体制の確保及び推進を目的に、神戸大学医学部附属病院医療安全管理委員会を設置し、原則として月1回開催し、次の事項について審議等を行っている。</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析 2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知 3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し 4. インシデント、アクシデント等の報告（全死亡例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告 5. 前号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導 6. その他医療安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）： 病院職員（医員、研修医、専攻医、大学院生及び事務を含む全職種）を対象に、「医療安全に関する職員必修講習」を年2回実施している。</p> <p>【1回目】令和5年6月1日～6月21日開催 2023年度医療安全に関する職員必修講習Ⅰ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「医療安全のためのノンテクニカルスキル」 ②「みんなで取り組む感染対策」 ③「抗菌薬使用について」 ④「医薬品安全使用における注意点について」 <p>【2回目】令和5年12月1日～12月21日開催 2023年度医療安全に関する職員必修講習Ⅱ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「CT・MR検査室からのお願い」 ②「患者さんも自分も守る感染対策の基本」 	

- ③「抗菌薬と消毒薬の適正使用」
- ④「医療機器の安全使用について」

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 院内で発生したインシデント事案と改善策の周知のため、各部署に配置した「質・安全マネジャー」を対象にした連絡会議を開催し、医療安全への意識を高めるよう努めている。
なお、質・安全マネジャーは「質・安全マネジャー連絡会議」を必修としている。(令和5年度開催実績：連絡会議6回)
 - (2) 有害事象が発生した場合は、直ちに当該部署の質・安全マネジャーから医療の質・安全管理部へ連絡するとともにインシデント報告システムから報告することを義務付けている。医療の質・安全管理部は当該事象の検証を行なう。重大な結果が生じた事象は直ちに病院長に報告するとともに、緊急問題検討会議が召集され検証及び対応について審議する。
 - (3) 医療安全、薬剤及び医療機器に関する重要事項の周知は、広報紙「くすのきスクエア」にまとめて発行し(令和5年度は年7回発行)、日本医療機能評価機構発行の医療安全情報と併せて配付している。
また、各部署内での回覧状況が確認できるよう専用ファイルで管理し、押印又はサインすることとしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： ・ 院内感染対策に関する基本的考え方 ・ 院内感染対策のための委員会・組織 ・ 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針 ・ 患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針 ・ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド・抗菌薬適正使用支援・特定抗菌薬届出の監視・コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集・院内環境の整備） ・ 感染制御の地域連携 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド報告、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会報告、職業感染予防対策（新型コロナウイルス対策、結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修の計画・実施報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義（e-ラーニング） ・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演 ・ 職種別や部門別（医師、看護師、診療技術部門等）対象に、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について資料配布、講義（e-ラーニング）、トレーニング ・ 外部委託業者への講習会を職種別に講義（DVD配布） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） 感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染対策実施状況を確認するために、オンタイムおよび随時(4-5回/週)に院内ラウンドを実施し、必要時指導。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法をメール審議し、随時介入指導。 ・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。 ・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施 ・ 職員に対してB型肝炎、4種ウイルス(麻疹、風疹、水痘、ムンプス)のワクチン歴や抗体価の調査およびワクチンの推奨を行い、データ管理を実施。 ・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底 ・ 改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントの実施。 ・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の使用方法について演習（オンライン含む）を実施。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年19回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新規採用職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習（e-learning形式）を実施した。内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。</p> <p>(2) 全職員を対象とした講習会（e-learning形式）を6月にかけて実施した。テーマは「医薬品安全使用における注意点について」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。</p> <p>(3) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例等を情報共有する「薬局会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(4) 例年通り、新人看護師を対象として「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に「医療用麻薬と泌尿器科で使用する抗がん薬について」「ステロイド・麻薬・睡眠剤・抗精神病薬・高K製剤について」「簡易懸濁について」「睡眠薬・鎮静薬について」等をテーマとした短時間講習を実施した。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じて改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会で審議し、医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄看護師長等に連絡し改善を依頼する。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>未承認新規医薬品については審議の申請がなかった。</p> <p>適応外使用については4事例承認した。具体的には①消化器内科「消化管内視鏡検査における酢酸散布法について」、②肝胆膵外科「超音波造影剤ソナゾイドを用いた超音波胆道造影法」、③産科婦人科「原因不明の不育症を対象とした妊娠初期PEG勝利完全分子型ヒト免疫グロブリン治療」、④小児科「SLEに対するアニフロルマブ静注療法」である。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビや各種ホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。</p> <p>(2) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は必要に応じて院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、必要に応じて、医療の質・安全管理部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施
- (2) 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の適切な実施
- (3) 医療機器の安全使用のための情報の収集（不具合情報、安全情報、健康被害等情報）
 - a. 収集した情報は医療機器安全管理委員会に報告している。
 - b. 医療機器安全管理委員会から関連部署へ通知し周知を図っている。
 - c. 医療安全管理委員会へ不具合情報ならびにその対応について報告している。
- (4) 未承認等の医療機器を用いた医療の提供
- (5) 医療機器の安全確保を目的とした改善方策の実施
- (6) 医療機器の添付文書及び取扱説明書の管理

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長（リスクマネジメント担当）を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、令和5年度は年7回発行した「くすのきスクエア」（医療安全、医療機器、薬剤）により周知徹底を図った。また、薬品情報室ニュース（採用薬・副作用・安全性情報）を適宜発信し周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬についてはすべて審査対象としている。適応外使用については、医薬品安全管理委員会にて「医薬品に関する未承認、禁忌、適応外使用に関する相談フォーム」を作成し、適応外使用のうち高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等実施審査委員会で審査を要する範囲を定めて運用している。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属： 薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームドコンセントに関する責任者が定期的に入院診療録のピアレビューを行い、不十分な場合には適切に実施されるよう研修・指導を行っている。医師による次の7項目のカルテ記載を必要としている。</p>	

1. 対象者（患者またはその代諾者） 2. 説明場所 3. 説明日時 4. 同席者（医療者） 5. 説明内容
6. 説明時の患者またはその代諾者の反応等 7. 患者またはその代諾者に同意を得たこと

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録管理責任者は、定期的に診療録等の記載内容の確認を行い、不十分な場合は、記載方法や内容の研修・指導等を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・ 所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 6 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 3 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）医療安全管理委員会の方針に基づき、同委員会と連携し、院内の医療安全に努める。 （2）インシデント事例収集、分析及び再発防止策を立案する。 （3）インシデント・アクシデント審議会、事例検証会等を開催し、事例の検証、調査及び対策の立案を行う。 （4）医療安全活動の企画、立案を行う。 （5）院内外で収集した医療安全情報の院内周知や医療安全に関する職員教育を行う。 （6）高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する適否判断と導入後のモニタリングを行う。 （7）医療安全に配慮した各種マニュアルの作成、改訂を行う。 （8）その他、医療安全に関する業務を行う。 <p>医療の質に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）医療情報から医療の質の評価に役立つ指標を病院戦略室と協働で分析、評価する。 （2）医療の質において評価が低く、問題となった点の分析、改善策の立案を行う。 （3）臨床倫理に関する事例等の対応支援を行う。 （4）総合的質管理委員会、業務標準化委員会と連携し、医療の質向上に努める。 （5）部門横断的な質改善活動等、院内の医療の質改善活動の支援を行う。 （6）その他、医療の質改善に関する業務を行う。 <p>モニタリングの具体例 院内死亡事例、院内急変事例、転倒・転落発生率ならびに損傷発生率 など</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に</p>	

係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、新規医療技術等の責任者として業務を掌理する
 - (2) 新規医療技術等の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
 - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する。
 - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否について関係各部署に対し、意見を求める。
 - (3) 決定した内容及び内規等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 282 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 59 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- (1) 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析
- (2) 分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知
- (3) 改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し
- (4) インシデント、アクシデント等の報告(全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告)の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告
- (5) 実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導
- (6) その他医療安全管理に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：横浜市立大学附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：長崎大学病院）・無
- ・技術的助言の実施状況：特になし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者支援センターに入退院支援・総合相談部門を置き、患者相談業務を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 病院職員（医員、研修医、専攻医、大学院生及び事務を含む全職種）を対象に、「医療安全に関する職員必修講習」を年2回実施している。

【1回目】令和5年6月1日～6月21日開催

2023年度医療安全に関する職員必修講習Ⅰ

- ①「医療安全のためのノンテクニカルスキル」
- ②「みんなで取り組む感染対策」
- ③「抗菌薬使用について」
- ④「医薬品安全使用における注意点について」

【2回目】令和5年12月1日～12月21日開催

2023年度医療安全に関する職員必修講習Ⅱ

- ①「CT・MR検査室からのお願い」
- ②「患者さんも自分も守る感染対策の基本」
- ③「抗菌薬と消毒薬の適正使用」
- ④「医療機器の安全使用について」

2. 院内で発生したインシデント事案と改善策の周知のため、各部署に配置した「質・安全マネジャー」を対象にした連絡会議を開催し、医療安全への意識を高めるよう努めている。

【1回目】令和5年5月29日 質・安全マネジャー連絡会議

「前年度インシデントの振り返り」

【2回目】令和5年7月31日 質・安全マネジャー連絡会議

「MET症例を振り返って-MET報告書からの事例検討」

【3回目】令和5年10月4日 質・安全マネジャー連絡会議

「患者相談案件に対する質・安全マネジャーの役割～医療メディエーター業務についてご存知ですか?～」

【4回目】令和5年11月16日 質・安全マネジャー連絡会議

「医療機器を安全に使用する～医療機器の研修管理について～」

【5回目】令和6年1月30日 質・安全マネジャー連絡会議

「特定機能病院の承認要件について～求められる医療安全体制～」

【6回目】令和6年3月22日 質・安全マネジャー連絡会議

「入院中の血糖管理について」「インスリン使用患者への看護と注意点」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が主催する令和5年度特定機能病院管理者研修を受講

管理者(令和6年2月26日受講)、医療安全管理責任者(令和6年1月15日受講)、医薬品安全管理

責任者(令和6年1月15日受講)、医療機器安全管理責任者(令和6年2月6日受講)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

●令和3年10月27日から令和3年10月29日にかけて、公益財団法人日本医療機能評価機構(以下、機構)が実施する病院機能評価のうち、一般病院3による評価を受審した。

●令和3年12月24日に機構から中間的な結果報告を受領した。

●令和4年1月25日に機構へC評価項目(6項目)に対する補充的な審査の受審意向登録(申込み)

後、令和4年2月4日に改善報告書を提出した。

●令和4年3月3日にC評価項目の内容及び改善報告書に基づき「訪問による審査」の旨が決定され、令和4年4月11日補充的な審査を受審した。

●令和4年6月3日付けで、「認定留保」となった旨、審査結果を受領した。

●令和4年6月28日付けで審査結果報告書を受領し、この日から起算して6ヵ月以内に再審査を受審し、改善要望事項として挙げられた4項目に係る改善の取り組みが評価できる資料を提出することとされている。

●令和4年7月25日付けで、再審査の申込みを行った。

●令和4年11月14日付けで、再審査に係る報告資料の提出を行った。

●令和5年2月24日、再審査を受審した。

●令和5年4月7日付けで、日本医療機能評価機構から「認定」の通知を受領した。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

本院ホームページに専用ページを開設しており、認定証及び日本医療機能評価が作成する「審査結果報告書」を公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

認定留保の審査結果を受け、「C」評価と判定された事項を重点的に改善に取り組み、病院全体で医療の質の向上に向けた取り組んだ。

1. 職員への情報共有

認定留保の審査結果を受け、病院執行部会議、病院運営審議会、業務連絡会議の病院の主要会議で報告するとともに、毎週月曜日に病院職員向けに配信している病院長月曜朝礼においても病院職員へ情報共有を行った。

2. 改善に向けた取り組み

(1) 令和5年度「病院の目標」の設定

本来の特定機能病院・高度急性期病院としての機能をしっかりと確保していくため、また、病院機能評価をきっかけとした特定機能病院としての機能の更なる充実を目標とし、令和5年度の「病院の目標」を定めた。病院全職員に対し、病院機能の更なる改善、充実に向かって継続的な取り組みを進めるよう、周知を行った。

(2) 職員必修講習の実施

職員向け必修講習として病院機能評価受審において改善要望された項目を含む医療安全に関する講

習会を実施した。インシデント防止における薬剤の一施用理の有効性、ハイリスク薬の取扱いなど医療に係る安全管理のための基本的な考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を図るため、e-learning による講義を行った。

（３）コアミーティングの実施

病院長をはじめ病院執行部を中心としたメンバー構成で、改善要望事項の課題解決に向けたミーティングを隔週で実施した。各関係部署で改善に向けたロードマップを作成して課題解決に向けて対応を行うとともに、コアミーティングでは、その進捗状況を確認し必要に応じて病院全体で改善に向けて対応を行った。

（４）「認定期間中の確認」に向けて取り組み状況の確認

病院機能評価の認定を受けてから３年目となる年に、病院における質改善活動の取組状況の確認及び報告が必要であるため、日本医療機能評価機構から「B」評価と判定された項目について、改善策に対する進捗状況の報告・確認を行った。各部署において認定時から継続して病院の質改善に向けた取り組みを実施しており、医療の質と安全の継続的な向上につなげている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。 (2) 大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。 (3) 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。 (4) パンデミック等の予期せぬ事態が発生した際の適切な医療体制整備及び運営に必要な資質・能力を有する者であること。 (5) 神戸大学医学部附属病院の理念・基本方針を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法 大学ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有（名簿のみ）） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有） ・ 公表の方法 大学ホームページ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
木戸 良明	理事(企画・人事・総務・病院担当)	○	神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第1号	有
河端 俊典	理事(研究・社会共創・イノベーション担当)		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第1号	有
村上 卓道	大学院医学研究科長		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第2号	有
秋末 敏宏	大学院保健学研究科長		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第3号	有
福本 巧	医学部附属病院肝胆膵外科長・教授		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第4号	有
置塩 隆	神戸市医師会 顧問		神戸大学医学部附属病院長候補者	無

	問		選考会議規程第3条第1項第5号	
上田 裕一	地方独立行政法人 奈良県立病院機構 理事長		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第5号	無
鈴木 康之	兵庫県立淡路医療 センター 院長		神戸大学医学部附属病院長候補者 選考会議規程第3条第1項第5号	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	○・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 主要人事（病院管理部門の長，診療支援・企画部門の長，診療科長，中央診療部門の長，専門診療施設等の長，薬剤部長，看護部長及び医療技術部長）に関する事項 (2) 病院組織の改編に関する事項 (3) 人事制度，定員の変更に関する事項 (4) 予算の配分及び執行並びに決算に関する事項 (5) その他答申を行うべき事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ホームページ及び業務連絡会議にて報告 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（○・無） ・公表の方法 ホームページ ・外部有識者からの意見聴取の有無（有○無） ※内規上は、必要と認められる時に意見を聴取できるとされているが、令和5年度においては聴取していない。 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
眞庭 謙昌	○	大学教員（医師）	病院長
黒田 良祐		大学教員（医師）	国際がん医療・研究センター長
佐々木 良平		大学教員（医師）	副病院長
児玉 裕三		大学教員（医師）	副病院長
溝渕 知司		大学教員（医師）	副病院長
岡田 健次		大学教員（医師）	副病院長
三宅 秀明		大学教員（医師）	副病院長
板東 由美		看護師	副病院長
前田 英一		大学教員（医師）	病院長補佐
伊藤 智雄		大学教員（医師）	病院長補佐
掛地 吉弘		大学教員（医師）	病院長補佐
寺師 浩人		大学教員（医師）	病院長補佐
明石 昌也		大学教員（歯科医師）	病院長補佐
菱本 明豊		大学教員（医師）	病院長補佐
坂口 一彦		大学教員（医師）	診療科長
大竹 寛雅		大学教員（医師）	診療科長

三枝 淳		大学教員（医師）	診療科長
小川 渉		大学教員（医師）	診療科長
南 博信		大学教員（医師）	診療科長
岩田 健太郎		大学教員（医師）	診療科長
村上 卓道		大学教員（医師）	診療科長
野津 寛大		大学教員（医師）	診療科長
久保 亮治		大学教員（医師）	診療科長
山口 崇		大学教員（医師）	診療科長
福本 巧		大学教員（医師）	診療科長
國久 智成		大学教員（医師）	診療科長
尾藤 祐子		大学教員（医師）	診療科長
松本 知之		大学教員（医師）	診療科長
篠山 隆司		大学教員（医師）	診療科長
中村 誠		大学教員（医師）	診療科長
丹生 健一		大学教員（医師）	診療科長
寺井 義人		大学教員（医師）	診療科長
小谷 穰治		大学教員（医師）	診療科長
酒井 良忠		大学教員（医師）	診療科長
小林 和幸		大学教員（医師）	病院管理部門の長
宮良 高維		大学教員（医師）	病院管理部門の長
真田 昌爾		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
高橋 路子		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
青井 貴之		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
村垣 善浩		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
松岡 広		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
宮西 正憲		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
矢野 嘉彦		大学教員（医師）	中央診療部門の長
豊永 高史		大学教員（医師）	専門診療施設等
山口 雅人		大学教員（医師）	専門診療施設等
福沢 公二		大学教員（医師）	専門診療施設等
立原 素子		大学教員（医師）	専門診療施設等
矢野 育子		大学教員（薬剤師）	薬剤部長
丸山 孝樹		理学療法士	医療技術部長
菊池 博之		事務職員	事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
ホームページ
- ・ 規程の主な内容
医学部附属病院規則第3条第2項に「病院長は、病院全般の管理、運営を総括し、所属職員（病院配置教員を含む。）を監督する。」とある。
職員の任免については、病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）及び予算の配分等の重要事項については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
以上のことから、病院長に一定の人事・予算執行権限が付与されていることを明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 神戸大学医学部附属病院副病院長設置要項を定めており、副病院長は、病院長の職務を分担し、病院長不在の際はその職務を代行することとなっている。
 - ・ 神戸大学医学部附属病院病院長補佐設置要項を定めており、病院長補佐は、病院の管理運営等に関する個別の具体的事項について企画立案を行い、病院長に提言することとなっている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 人事について
病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
また、主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
 - ・ 研修について
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修」を病院のマネジメントを担う者（管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者）に受講させ、その育成を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記業務について、病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行う</p> <p>(1) 医療安全管理に係る体制</p> <p>(2) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況</p> <p>(3) 医療の質・安全管理部の業務の状況</p> <p>(4) 医療に係る安全管理のための委員会等の業務の状況</p> <p>(5) その他医療安全管理に関して必要な事項</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診 療部長/内科主任科 部長/医療安全管理 部長/医療安全推進 室長	○	医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
丸山 英二	京都府立医科大学 大学院医学研究科 客員教授 (非常 勤)		医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
武田 高	関西住宅品質保証 株式会社監査役 (非 常勤)		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制については、国立大学法人神戸大学内部監査規程（平成16年4月1日制定）に定める内部監査その他の本学において実施する各種監査により整備されている。

病院運営管理では、法令諸規則に準拠した運用がされているかについて監査を行い、医療安全管理では、外部監査の意見、相互レビューの助言について対応措置が講じられているかについて監査を行う。

なお、管理者は、内部統制システム（e-learning）研修を受講し、病院における内部統制システム実施状況を定期的に学長に報告している。

学長は、報告の結果必要と認めるときは、内部統制委員会の議を経て改善を管理者に命ずる。

管理者は、改善内容及び結果について学長に報告する。

・ 専門部署の設置の有無（有・無）

・ 内部規程の整備の有無（有・無）

・ 内部規程の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法
ホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）による特定機能病院（医学部附属病院）の業務の監督に係る体制については、病院業務監督会議において、病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の附属病院の管理運営に関する重要事項について監督されており、確保されている。 ・ 会議体の実施状況（年1回）※対面会議のほか、四半期ごとの経営状況に関するメール報告あり ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年1回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 ホームページ 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
木戸 良明	神戸大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
森山 睦	神戸大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
上田 裕一	奈良県立病院機構		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
木下 芳一	兵庫県立はりま姫路総合医療センター		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
森 悦朗	大阪大学大学院連合小児発達学研究所		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)・ 周知の方法 ホームページ、医療スタッフポケットマニュアル、医療安全管理マニュアルに掲載